

JDG Chiba
Seit 1996

Die Eiche

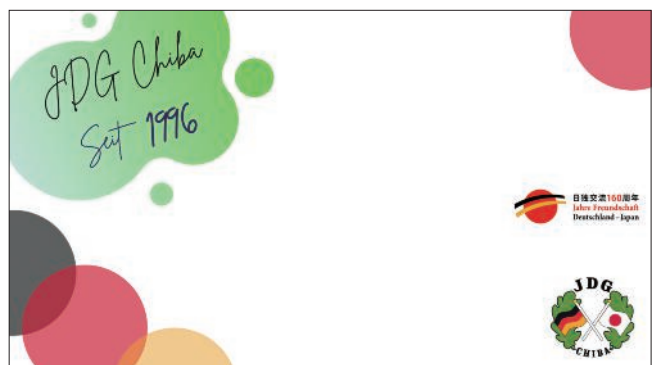
千葉県日独協会創立 25 周年特別号



表紙について

当協会竹内 優理事がデザインしたもの（→）をベースにしています。

2021年6月19日、同理事の企画により、創立25周年記念及び日独交流160周年記念行事として、オンラインにて青壮年部懇談会が開催されました（詳細は22ページご参照）。その際にバーチャル背景（ビデオ会議で使用する画面背景）として使用されたものです。



Die Eiche ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

植樹から25年のDie Eiche

1996年11月17日のドイツ軍人慰霊祭で、Die Eiche（ドイツカシワ）の若木が1本船橋市営習志野霊園の慰霊碑前に記念植樹されました。その経緯について、Die Eiche No.91（慰霊祭特集）より引用します。「1936年のベルリン五輪・三段跳びで優勝した田島 直人氏（1912-1990）に金メダルとともに授与された苗木の“子孫”。シュバルツバルト原産で受賞後、田島氏の母校・京都大学農学部へ植えられ、「オリンピック・オーク」と言われた。若木はその種子から採られたもので、田島 麻夫人（1932年ロス五輪陸上選手）から贈られ、加藤 吉昭・日独協会初代会長、林 静誠・理事長両氏らから大橋 和夫・船橋市長（当時）に渡された。」

目 次

千葉県日独協会 会長のご挨拶	3
来賓祝辞	4
千葉県日独協会創立 25 周年のあゆみと現状	8
特別企画① 会員の皆様からのメッセージ	11
特別企画② 青壮年部懇談会	22
運営委員が考える千葉県日独協会の今後	24
編集後記	29
Appendix 1 千葉県日独協会の年表	30
Appendix 2 日独交流 150 周年記念菩提樹植樹リスト	32

千葉県日独協会 会長のご挨拶

Die Eiche 千葉県日独協会創立25周年特別号 発行にあたって

会長 金谷 誠一郎

当協会の会報Die Eicheの総集編「Ⅱ」が発行されたのは、2016年10月22日であり、協会設立から20年目で今回の総集編発行は、2026年と考えていた所、「25周年特別号」発行の提案が出て、「？」と考えて、思い出したのが大学を卒業して就職、国内販売を8年経験して1975年にロンドン駐在



となり、生活・仕事に慣れた1977年にエリザベス女王結婚25周年という事で、町の通りには「The Queen's Silver Jubilee 1952-1977」の横断幕が飾られていた事です。ということで、当協会発足25周年にあたり、将来を担う青壮年部の人達をはじめ会員各位に当協会発足時の状況などを書き記して置くのも私の役目と考えて、記述する次第です。

千葉県日独協会の設立に誰より関心を持っていたのが当時の(財)日独協会常務理事であった花井 清氏(故人)と同協会会員の加藤 吉昭氏(故人)でした。花井氏はお父様が五・一五事件や戦後の東京裁判では広田 弘毅(こうき)の弁護人を務め、後に検事総長になりました。花井氏が幼少の頃に、大戦後初めてドイツから東京大学に留学生が来日、花井氏宅に寄宿され、小学校に通う花井氏と共に学校について行き、日本語を学んだとの話を聞いたことがあります。その留学生が後に大使となって日本に来られたとのことで、当然ながら花井氏はドイツ大好き人間になられたようです。

一方、加藤 吉昭氏は日本大学歯学部教授で総入れ歯に関しては有名で、ベルリン自由大学から2度に亘り客員教授として招聘されており、ドイツが好きになられて、(財)日独協会に入会、月例会や講演会には、首から一眼レフを下げて参加しておられました。また加藤氏のお父様は、日米開戦の「ニイタカヤマノボレ」を打電した船橋の旧海軍無線塔の建設責任者であり、ドイツ人技師と共に作った人であった、という事です。

1995年に西ドイツの大使館から武官と共に大使が習志野霊園にある慰霊碑を訪ねて来られるという事で、花井氏が加藤氏と協力をしてドイツ軍人慰霊祭開催に向けて準備をしていました。

加藤氏の弟で獣医師の光昭氏(故人)が当時ジャズバンド仲間だった林 静誠氏(社会福祉法人清和会理事長)に「兄を手伝って欲しい」とお願いし、林氏は慰霊祭の実行委員長を引き受けることになったそうです。この慰霊祭が翌年の協会設立につながり、加藤氏は初代会長とされました。

(財)日独協会の青壮年委員長として、受付や要人の見送りなどの雑用をしていました私は、当協会設立後に専務理事に指名され、それから25年間を過ごしてまいりました。また林顧問には設立以来、社会福祉法人清和会特別養護老人ホーム第2ワールドナースホームを協会事務局とさせていただき、協会宛の郵便物受け取り、関係先からの連絡業務の中継に、同ホームの職員1名の方に兼務していただいております。特に2000年～2014年まで担当させていただきました西阪 知晃理事には、当協会の事務局長も兼務していただき、大変お世話になりました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

協会設立から25年間に多くの変化がありました。特にこの10年の間には大災害が相次ぎ、新型コロナウイルス感染症による影響は現在も続いております。しかし歴代会長、役員や会員の皆様のおかげで、数々の困難を乗り越え、またこれからも乗り越えていけるものと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願いいたします。また今年は日独交流160周年の年でもあります。両国の絆がますます深まりますよう、そして皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。



1995年11月19日当協会設立のきっかけになった
ドイツ軍人慰霊祭(林 静誠顧問提供)

来賓祝辞

イナ・レーペル大使のご挨拶

千葉県日独協会会員の皆様

ドイツと日本の良好な二国間関係は、両国の市民社会による活発な交流活動なくしては考えられません。各地域の日独協会は、この交流関係における重要な要素です。多くの場合、ボランティアとして活動されている日独協会会員の皆様のお陰で、大勢の日本の方々がドイツやドイツ文化に触れる機会を得ています。こうしたことから、千葉県日独協会が本年、設立25周年を迎えられますことを特に喜ばしく存じます。



この25年間、皆様は特筆すべき成果を挙げられ、数多くの活動や催しを通じて、日独両国の良好な関係が維持され、また一層深みを増すための貢献を果たされました。習志野の俘虜収容所で亡くなったドイツ人兵のために毎年ドイツ軍人慰霊祭を開催され、協会通信「Die Eiche (ディ・アイヘ)」を定期的に発行されていること等は、このことをよく表しています。私自身、2019年11月に貴協会を訪れた際のこと、すばらしい思い出として記憶しております。

千葉県日独協会会員の皆様や、金谷会長はじめ役員の皆様に、この記念すべき節目にあたり心からお祝い申し上げますとともに、日独関係のためのお取り組みに感謝を捧げます。今後のますますのご発展と、実り多いご活躍をお祈りいたします。

ドイツ連邦共和国大使
イナ・レーペル

Sehr geehrte Damen und Herren, liebe Mitglieder der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Chiba,

die guten bilateralen Beziehungen zwischen Deutschland und Japan wären ohne den lebhaften Austausch zwischen den Zivilgesellschaften beider Länder nicht vorstellbar. Die Japanisch-Deutschen Gesellschaften sind in diesem Austausch ein wichtiges Element. Es ist das meist ehrenamtliche Engagement der Mitglieder der JDGs, welches es vielen Japanern erlaubt, mit Deutschland und mit der deutschen

Kultur in Kontakt zu treten. Es freut mich daher besonders, dass die JDG Chiba in diesem Jahr ihr 25-jähriges Bestehen feiert.

Sie haben in dieser Zeit Außerordentliches geleistet und mit zahlreichen Aktivitäten und Angeboten engagiert dazu beigetragen, dass die guten Beziehungen zwischen Deutschland und Japan erhalten bleiben und an Tiefe gewinnen – die jährlich stattfindende Kranzniederlegung zum Gedenken an die Verstorbenen des Kriegsgefangenenlagers Narashino sowie die regelmäßig herausgegebene Mitgliederzeitung „Die Eiche“ sind beispielhaft dafür. Auch meinen Besuch bei Ihnen im November 2019 habe ich in bester Erinnerung.

Ich gratuliere allen Mitgliedern der JDG Chiba sowie Präsident Kanaya und dem Vorstandsteam herzlich zu diesem Jubiläum und danke Ihnen allen für Ihren Einsatz für die deutsch-japanischen Beziehungen. Für die weitere Arbeit wünsche ich Ihnen viel Erfolg und gutes Gelingen.

Ina Lepel
Botschafterin der Bundesrepublik Deutschland



カルステン・キーゼヴェッター陸軍大佐のご挨拶

千葉県日独協会 25 周年記念の年にこの協会通信「Die Eiche (ディ・アイヘ)」に投稿させていただく機会を得、とても嬉しく光栄に存じております。この記念すべき年に、千葉県日独協会として金谷 誠一郎会長に心からのお祝いを申し上げます。

1996 年 6 月 1 日の創立以来、千葉県日独協会は講演会、イベント、旅行や日本人とドイツ人の交流など多くの活動を行ってこられました。

習志野の墓地での亡くなったドイツ兵の追悼には、千葉県日独協会の皆様が、自衛隊や学校、合唱団などと緊密に協力し、心をこめて準備して下さる式典をご準備くださり、毎年私にとって特別な経験となっています。

地元の皆様の心のこもった対応にはいつも感動させられます。100 年以上の時を経て、故郷から遠く離れた場所で俘虜となったドイツ兵の記憶が、これほどよく伝えられていることは当たり前のことではありません。

日独の友好関係が始まって 160 年が経ちました。

1861 年 1 月 24 日、オイレンブルク使節団が日本に派遣され、日本・プロイセン修好通商条約が締結され、外交関係が成立しました。その歴史を振り返ると、両国の関係には良好な時期もあれば、少なかったとはいえ良くない時期もあり、その両方が私たちの関係をより緊密で強固なものにしてくれたことがわかります。

日本とドイツは、友情と共通の価値観で結ばれ、同じ関心事を共有しています。今年、ドイツ海軍の艦船が来日することも、日本がドイツにとっていかに重要かを示す証です。ですから、この記念すべき年に千葉県日独協会が 25 周年を迎えることができることを特に嬉しく思います。

少なくともこれからの 25 年も、千葉県日独協会の会員の皆様のご清栄をお祈りしております - また皆様とお会いできることを楽しみにしております。

ドイツ大使館 国防武官

カルステン・キーゼヴェッター 陸軍大佐



Grußwort

Es ist eine besondere Freude und Ehre für mich, anlässlich des 25jährigen Jubiläums der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Chiba ein Grußwort in der „Eiche“ schreiben zu dürfen. Zu diesem Ereignis gratuliere ich der Deutsch-Japanischen Gesellschaft und dem Präsidenten, Herrn Seiichiro KANAYA, sehr.

Seit ihrer Gründung am 01. Juni 1996 zeichnete sich die Deutsch-Japanische Gesellschaft Chiba durch viele Aktivitäten, u.a. durch Vorträge, Veranstaltungen, Reisen und dem Austausch zwischen Japanern und Deutschen aus. Es ist jedes Jahr ein besonderes Erlebnis, auf dem Friedhof der verstorbenen deutschen Soldaten in Form einer feierlichen Zeremonie zu gedenken, die seitens der Gesellschaft in enger Zusammenarbeit mit den japanischen Selbstverteidigungsstreitkräfte, Schulen und Musikvereinen mit viel Herzblut vorbereitet wird. Die Herzlichkeit der Bevölkerung ist immer sehr bewegend. Es ist nicht selbstverständlich, dass nach über 100 Jahren die Erinnerung an die fern der Heimat in Kriegsgefangenschaft lebenden deutschen Soldaten so hoch gehalten wird.

Die Geschichte der deutsch japanischen Beziehungen besteht seit 160 Jahren.

Am 24. Januar 1861 wurde im Rahmen der Eulenburg Mission der Preußisch-Japanische Freundschafts-, Handels- und Schifffahrtsvertrag unterzeichnet und die diplomatischen Beziehungen begründet. Wir blicken zurück auf Höhen und wenige Tiefen, die unsere Beziehung zusammengeschweißt und gefestigt haben. Durch Freundschaft und gemeinsame Wertvorstellungen verbunden, teilen Japan und Deutschland gleiche Interessen. Auch der Besuch eines Schiffes der Deutschen Marine in diesem Jahr zeugt davon, wie wichtig Japan für Deutschland ist. Daher freut es mich besonders, dass wir in diesem denkwürdigen Jahr das 25 jährige Jubiläum der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Chiba feiern können.

Ich wünsche Ihnen, den Mitgliedern der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Chiba, mindestens auch für die nächsten 25 Jahre viel Erfolg - ich freue mich auf ein Wiedersehen mit Ihnen!

Karsten Kiesewetter Oberst i.G.
Verteidigungsattaché der deutschen Botschaft
Tokyo

独日協会アム・ニーダーライン Dr. ギュンター・ホルツェツキー会長の祝辞

独日協会アム・ニーダーラインは千葉県日独協会の25周年を心から祝福するとともに、今後25年の更なるご繁栄をお祈り申し上げます。

本来ならば、当協会から派遣団を送り、直接バースデーケーキをお渡ししたかったです。

今年は特に日独友好条約締結160周年にも当たりますから、実際にお会いしてお祝いするもう一つの良いきっかけになるはずでした。しかし現在猛威を振るっているパンデミックはそれを許してはくれず、とても残念です。

ドイツの諺の「延期は取り消しではない」を慰めとし、できるだけ近い将来に再会して、お祝いできることを楽しみにしております。

それまでの期間を活用して、それぞれの協会同志のみならず、千葉県の皆さんとニーダーラインの人々との交流をどのような活動でもっと深いものにできるかのアイデアを出し合うことを提案したいと思います。

両協会は人と人をつなげることによって、仲介役となり、それによって日本とドイツの関係を深めることに具体的に貢献することができでしょう。

このような交流を楽しみにしています。

この提案をもって、独日協会アム・ニーダーラインからのプレゼントと代えさせていただきます。バースデーケーキはまた実際にお会いできる様になってから、お届けしたいと思っています。

独日協会アム・ニーダーライン会長
Dr. ギュンター・ホルツェツキー

Grußwort des Präsidenten der Deutsch-Japanischen Gesellschaft am Niederrhein (DJG), Dr. Günther Horzetzky

Die DJG am Niederrhein gratuliert der Japanisch-Deutschen Gesellschaft der Präfektur Chiba ganz, ganz herzlich zu ihrem 25-jährigen Geburtstag und wünscht ihr für die nächsten 25 Lebensjahre alles, alles Gute.

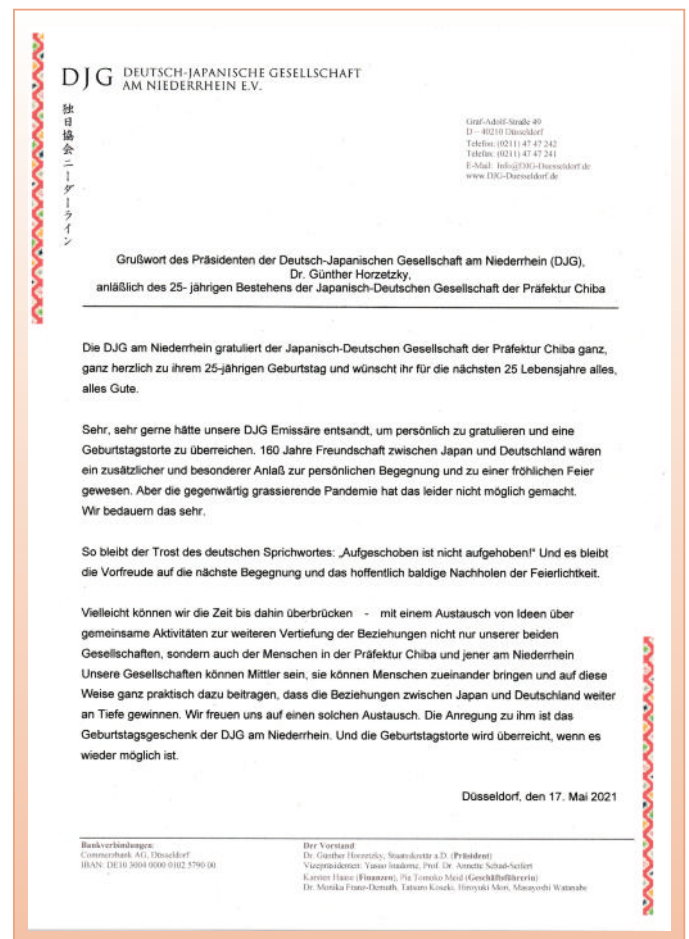
Sehr, sehr gerne hätte unsere DJG Emissäre entsandt, um persönlich zu gratulieren und eine Geburtstagstorte zu überreichen. 160 Jahre Freundschaft zwischen Japan und Deutschland wären ein zusätzlicher und besonderer Anlaß zur persönlichen Begegnung und zu einer fröhlichen Feier gewesen. Aber die gegenwärtig grassierende Pandemie hat das leider nicht möglich gemacht. Wir bedauern das sehr.



So bleibt der Trost des deutschen Sprichwortes: „Aufgeschoben ist nicht aufgehoben!“. Und es bleibt die Vorfreude auf die nächste Begegnung und das hoffentlich baldige Nachholen der Feierlichkeit.

Vielleicht können wir die Zeit bis dahin überbrücken-mit einem Austausch von Ideen über gemeinsame Aktivitäten zur weiteren Vertiefung der Beziehungen nicht nur unserer beiden Gesellschaften, sondern auch der Menschen in der Präfektur Chiba und jener am Niederrhein. Unsere Gesellschaften können Mittler sein, sie können Menschen zueinander bringen und auf diese Weise ganz praktisch dazu beitragen, dass die Beziehungen zwischen Japan und Deutschland weiter an Tiefe gewinnen. Wir freuen uns auf einen solchen Austausch. Die Anregung zu ihm ist das Geburtstagsgeschenk der DJG am Niederrhein. Und die Geburtstagstorte wird überreicht, wenn es wieder möglich ist.

Dr. Günther Horzetzky
Präsident der DJG am Niederrhein



ご挨拶

千葉県知事 熊谷 俊人



千葉県日独協会が創立25周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

1996年6月の創立以来、貴協会におかれましては、習志野霊園でのドイツ軍人慰霊祭をはじめ、ドイツからの奨学生の受入、県内での講演会の開催等、様々な活動に取り組みられ、四半世紀に渡り、日独間の友好親善や相互理解の増進に大きな役割を果たされてきました。

本県は、2005年からデュッセルドルフ市と交流を行っていますが、貴協会には、現地で開催される「日本デー」での千葉県のPRをはじめ、様々な交流事業において御協力をいただいております、改めて感謝申し上げます。

近年、貴協会では、日独交流の将来を見据え、若い世代の参加促進や、交流事業のオンライン化といった取組を積極的に進められていると伺っております。現在、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大により、国際交流を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、こうした取組が今後着実に実を結び、日独間の友好関係のさらなる発展につながっていくものと期待しています。

結びに、日独交流の懸け橋としての長年にわたる功績に深く敬意を表するとともに、今後20年、30年とさらに活動の輪が広がりますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

創立25周年に寄せて

船橋市長 松戸 徹



千葉県日独協会が創立25周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会の皆様におかれましては、平成8年の創立以来、第一次世界大戦の最中にスペイン風邪によって尊い命を落とされたドイツ軍兵士の方々の慰霊祭をはじめ、音楽会、研究・研修会、ドイツ大使との意見交換会の開催など、精力的に活動してこられました。

また、今日、新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約がある中でも、慰霊祭は規模を縮小し、講習会は新たにオンラインシステムを活用して開催するなど、様々な工夫をして活動を続けてこられました。

こうした活動は、私たちが平和な社会に暮らすことのできる幸せを改めて考え、次の世代に平和の尊さを語り継ぎ、戦争の惨禍を繰り返さないために大変大きな意義を持つことに加え、日独友好親善・相互理解に大いに寄与するものであり、金谷会長をはじめ、歴代の会長、会員の皆様のご尽力に心から敬意を表する次第です。

千葉県日独協会が、これまでに築いてこられた歴史と伝統のもとさらに飛躍されますことと、日独両国の友情がさらに深められますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

ご挨拶

習志野市長 宮本 泰介



このたび、日独交流160周年という記念すべき年に千葉県日独協会が創立25周年を迎えられますことを、心から御祝い申し上げます。

貴協会は、平成8年6月に設立されて以来、千葉県におけるドイツとの友好親善のため、多大なる御尽力をいただいております。長年にわたり、ドイツ兵慰霊祭の開催や歴史的調査への御支援など、その尊い活動を通して日独交流の懸け橋となっており、深く敬意を表します。

第一次世界大戦のドイツ兵捕虜を収容した習志野俘虜収容所に端を発する関係は、多くの人々の努力により交流と友好の歴史へと導かれました。

現在、貴協会の御支援・御協力のもと毎年開催されている秋のドイツフェア、年末の習志野市第九演奏会は、昨年はコロナ禍により中止となったものの、いずれも本市に欠かせない重要な行事として市民に愛されるとともに、まちに賑わいをもたらしています。

今後とも本市は貴協会と手を携え、ドイツとの親善を深めながら、さらなる豊かな歴史を重ねていくことを心より願っております。なお一層の御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

千葉県日独協会 創立25周年のあゆみと現状

役職名・団体名などは当時のものです。

加藤 吉昭会長時代を振り返って

会長 金谷 誠一郎

1996年6月1日に発足した千葉県日独協会として、先ず会則作成、役職名、役員選出案、どのような活動を行うか等時間をかけて種々検討を行って、翌年1997年4月26日に第1回の年次総会を開催、1997年度の活動計画案及び予算案の承認を得た後は、如何にして会員に当協会に親しんで戴くか？に重点を置いて加藤会長や役員諸氏とも相談の上、まずは「チター演奏会を…」ということで、日本チター協会会長で当協会理事の内藤 敏子先生に、お願いして「チター演奏とドイツパン・ワインを楽しむ集い」を柏市の「ゆうゆう倶楽部—TOMO」にて1997年6月に開催。(財)日独協会会員にも参加してもらい33名の皆さんにチター音楽とドイツワイン、ビールにドイツパン、プレッツェルで楽しんでいただきました。加藤会長が急逝された2001年4月以降も毎年夏に開催して会員から喜ばれました。

また1997年6月にはDie Eiche No.1が発行されました。Die Eicheは協会の活動を会員に伝える重要な役割を果たしていきます。初代編集長は船橋市職員の南部 擁司専務理事でしたが、2001年半ばに辞任されましたので、同年後半以降は、私が引き継ぎました。

一方講演会の後はビールということで、秋のオクトーバーフェストに合わせて講演会を開催、1999年には、田久保 忠衛副会長に「今日の国際情勢」と題して解説していただき、林 静誠理事長の乾杯で交流を深めました。

肝心のドイツ軍人慰霊祭は、毎年11月中旬の日曜日に開催され、1999年には新任のヴァルナー海軍大佐を招き、幕張のグリーンタワーホテルでささやかな歓迎会を行い、当協会名誉会員の臼井 日出男法務大臣(元防衛庁長官)にも参加していただき、今後の日独友好親善と交流促進について歓談されました。その他、DAADのドイツ人留学生と合同でのバスハイキングや(財)日独協会のドイツ語教師に船橋まで出張していただき、ドイツ語勉強会なども実施しました。

その他1919年12月25日に習志野俘虜収容所のドイツ・オーストリア兵解放80周年を記念して、習志野市教育委員会主催、(財)日独協会、(社)ドイツ東洋文化研究会(OAG)共催、NHK千葉放送局、当協会協賛による、「特別資料展 ドイツ兵士の見たNARASHINO習志野捕虜収容所1915-1920」が2000年1月15日から京成津田沼駅前の「ザ・クレストホテル津田沼」で始まり、そのオープニングセレモニーにはケストナー大使、西郷 寅太郎氏の孫、

吉太郎氏、それにヘルムート・ケテル氏の孫(同姓・同名)、当協会の石崎 満氏、ボトルシップを習志野市へ寄贈された歌田 實理事等約100名が参加しました。

平尾 浩三会長時代を振り返って

会長 金谷 誠一郎

加藤 吉昭会長が2001年4月に急逝された後、当協会第2代目の会長には、全員一致で平尾 浩三先生が選出されました。

平尾会長はドイツ語を学ぶ者にとっては、ラジオのドイツ語講座やドイツ中世の歴史に関する各種講座でも人気の先生で、2005年にはドイツ大使館に於いて、ドイツ連邦共和国から「功労勲章一等功労十字章」を受賞されました。また、簡単にはお願い出来ない有名人、「されどわれらが日々」の柴田 翔氏には、ゲーテ『ファウスト第一部』のヒロイン マルガレーテの2つの歌など」と題して、ドイツ語学の権威、岩崎 英二郎先生には「ドイツ語の難しさ・おもしろさ」、稲毛にある放射線医学総合研究所名誉研究員の平尾 泰男先生(会長のお兄様)には「重粒子線による癌治療」などの講演をお願いするなど、当協会活動を盛り上げていただきました。

加えて、第一次世界大戦で日本軍に敗れて徳島の板東俘虜収容所で5年間を過ごし、帰国時に「第九」を合唱したドイツ兵を描いた映画「バルトの楽園(がくえん)」のドイツ語監修者として平尾会長の名前が字幕に出て来ます。

平尾会長の下、2005年秋の「ドイツに親しむ三日間」の準備には、橋口・国枝副会長を中心に、千葉大学の大講堂「けやき会館」を借り切り高橋 麻理子さんのピアノ演奏、日本チター協会会長、内藤 敏子先生を中心とする方々のチター演奏、講演会などで成功裡に終了したのが思い出されます。

更に、2006年10月に来日したアム・ニーダーライン日独協会会長のDr. フォンドラン氏と「両協会が1年交代で高校生2名を夏休みに2週間派遣する。」との協定を結び、2008年および2010年に実施されました。

また2009年4月20日～22日には、全国日独協会連合会の年次総会が幕張メッセ国際会議場201号室に於いて、全国57協会の半数を超える29協会の参加を得て開催されました。初日夕刻にはデア大使ご夫妻、森田千葉県知事、鈴木ちば国際コンベンションビューロー専務理事をお迎えして前夜祭が開かれ、翌21日の総会では事務局提案の5議案が承認されました。また期間中、稲毛の「放医研見学」「かずさ路バス旅行」の2つのプログラムから、選択した方を選んで見学した後、平尾会長のご好意で用意された千葉県名物の「ピーナツ」が贈呈され、参加者には大変好評でした。



「ドイツに親しむ三日間」のパンフレット

宗宮 好和会長時代を振り返って

常任理事 吉川 三朗

宗宮 好和氏は、2010年5月から2016年4月までの6年間、当協会の会長を務められました。この間、橋口副会長があらゆる場面で精力的に活動されていたことが印象に残っています。私が入会した2014年春は宗宮会長でしたので、その後、運営委員会等を通してお二人からは協会についていろいろな事を教えてもらいました。

協会経歴の浅い私に今回こうした紙面で語れるほどの知識はなく、恐縮しておりますが、編集会議の指名により書かせていただくことになりました。

まず、当協会のホームページについてですが、宗宮会長が須古副会長等との協力のもとに2013年1月23日に開設されたことを特筆したいと思います。今では、どの組織もホームページを持っていて当たり前の時代ですが、資金力の乏しい当協会にとって当時では画期的なことと思います。そして今に至っては協会運営上、無くてはならないツールとなっております。また、2010年2月に発足した「ボトルシップ研究会」（宗宮会長）における国内及び海外からの情報収集でも、このホームページが多大な効果を果たしています。実は、ホームページにある「ボトルシップ研究会の趣旨・目的」では、日本語だけではなく独語版も掲載されており、次のようないくつかの交流が生まれたことを紹介します。

- ① Elmar Grosse 氏からの接触（2013年4月）、
その後の習志野俘虜収容所に関する写真購入
（Die Eiche No.113 参照）
- ② Joerg Torsten Nickel 氏の訪問（2013年5月）
（Die Eiche No.82 参照）
- ③ Dr. Imke Lührs 氏への接触、
評論の翻訳（2015年8月）
（Die Eiche No.96 参照）



2018年6月 Grosse 氏から
入手した写真について
講演する宗宮氏

次に特筆したいのが、2014年11月に発行された Die Eiche No.91（慰霊祭特集）のカラープリント版です。これ以降、Die Eiche はフルカラー印刷となり、写真はもちろん文章も非常に読みやすい紙面となり、田中 正延編集長の熱意と努力に感謝しております。

以上、断片的な記述となりますが、紙面の関係上ここで筆をおきます。



Die Eiche No.91(慰霊祭特集)

金谷 誠一郎会長時代の今

副会長 木戸 裕

2016年4月23日、当協会の第20回総会で、3期6年会長を務めた宗宮 好和氏が退任し、専務理事の金谷 誠一郎氏が新会長に就任しました。

金谷新会長は、当協会設立以来の会員であるだけでなく、東京の（公財）日独協会でも常務理事（事務局長相当）を長年務められ、全国約60ある日独協会との交流にも尽力されています。また、デュッセルドルフの独日協会アム・ニーダーライン（Deutsch-Japanische Gesellschaft am Niederrhein）をはじめとするドイツの関係者にも知己が多く、会員一同の期待に応えての就任でした。

金谷会長は就任にあたり、ドイツ軍人慰霊祭の主催、ドイツデーへの参加をはじめとする一連の年間行事の実施、ボトルシップ研究会などの文化活動の継続・強化、デュッセルドルフ市の日本デー（Japan-Tag）への参加など、前会長の路線を全面的に引き継ぎ、発展させていく方針を示しました。

あわせて新会長は、とくに「若手会員の組織化」「会員が楽しめる企画」という2つのスローガンを掲げられました。前者については、新たに青壮年部が創設されることになり、2018年の総会で承認のち、勝見 浩明理事が初代部長に就任しました。青壮年部は、会長が掲げた「会員が楽しめる企画」とタイアップして、多彩なプランを実行に移しました。これらイベントには、青壮年部以外の会員の皆さんも全面的に協力・参加しています。その主なものとして、「ドイツ料理食べ歩き会」「ドイツパン研究会」「トールペインティング教室」「ドイツパンと料理を楽しむ会」「オーストリア料理を味わう会」等々が挙げられます。



2018年7月青壮年部顔合わせ

そのほか、恒例のビール祭り、ドイツワイン試飲会、習志野市、市川市のドイツフェアへのイベントへの参加、懇親日帰りバス旅行、クリスマス&忘年会、新春講演会&懇談会など、従来からの一連の行事も会員の皆さんチームワークを組んで、和気藹々のうちに楽しく行われてきました。

ところで、金谷会長就任後まもなくの2016年10月、当協会は創立20周年を祝いました。その記念式典で、来賓のドイツ連邦共和国公使、シュテファン・グループヘア氏が「20年という若い協会が150年という日独両国の緊密な協力と伝統を保持し、将来への形を作ったことは千葉県日独

（次ページへ続く）

(前ページより)

協会の功績です」と述べられた言葉は印象的でした。なお、2019年11月には、イナ・レーペル大使をお招きしての講演会・懇親会を実施することができました。

20周年記念行事に花を添えた慶事として、同じ年の文化の日である11月3日、当協会は千葉県の「地域観光振興功労者」として森田 健作知事より団体表彰されました。当協会がデュッセルドルフ・日本デー等で日独交流に貢献し、ドイツの方々への千葉県の理解を深めたことが評価されたものです。



2019年5月デュッセルドルフにて

なお、2019年5月には、金谷会長と橋口 昭八名誉会員が渡独し、森田千葉県知事とガイゼル・デュッセルドルフ市長との間で取り交わされた「デュッセルドルフ市と千葉県の姉妹提携合意書」の調印式に立ち会いました。

こうした当協会の活動は、昨年（2020年）来のコロナ禍のなかで激変を余儀なくされました。金谷会長は本年（2021年）の「年頭のご挨拶」で、次のように述べています。昨年からの当協会の活動の様子がリアルに伝わってきますので、少々長くなりますが引用します（Die Eiche No.129）。

「100年前に世界中に蔓延した「スペイン風邪」は、会員の皆様には、第一次大戦で日本軍に敗れ、習志野の俘虜収容所で感染死されたドイツ兵に対する当協会の「慰霊祭」を通してご存知のとおりですが、今回の新型コロナウイルスによるパンデミックは、昨年夏以降急速に世界中に広がり、収束の兆しは未だに見えておりません。このような状況下では、一堂に会してのイベント開催は残念ながら見送らざるを得ませんでしたが、その中で恒例のドイツ軍人慰霊祭は、規模を大幅に縮小して、何とか実施にこぎ着けることができ安堵いたしました。

対面での行事ができなかった分、ズームを使った「シュタムティッシュ」、「オンライン・ドイツ語講習」の開催など、新しい試みを実施することができました。本通信Die Eicheも1号の遅れもなく刊行し、予定通り発送できましたことは、皆様のご協力の賜物と存じます。

また今年で丁度10年となる「日独交流150周年記念菩提樹」につきましても、関係各位のご協力によりその後の成長のあとをたどることができました。コロナ禍の中であって、本年も皆様のお知恵を拝借しながら、将来を見据えた協会のあり方を考えて参りたいと思っております。」

この間、宗宮前会長が中心となり会員有志によって進めら

れてきた「エーリッヒ・カウルの日記を翻訳する会」は、その翻訳を完成しました。完成稿は、2020年9月30日、千葉県日独協会と習志野市のホームページで同時公開され、関係者の間から高い評価を受けたことも慶賀すべき出来事です。

またコロナ禍の中で、本年6月、オンラインで開かれた「国際フェスタCHIBA」に当協会も参加しました。そのサイトには、当協会の活動PR動画も掲載されています。

当初は、ドイツ語講習ではじまったオンラインによる「シュタムティッシュ」も、今後はより幅広い形での日独文化交流につながっていくものと期待されます。

最後に特筆すべきイベントとして、本年6月19日に開催された、日独の若者によるオンライン交流会が挙げられるのではないのでしょうか。青壮年部の若手が企画し、実現した「日独若者シンポジウム」は、当協会の明るい未来を予測させる催しであったように思います。

ドイツ軍人慰霊祭など、従来の活動を中心に据えながら、当協会は、次のステップである30周年に向けて新たな歩みを刻んでいくものと思われます。

25周年を迎える当協会会員の現状

副会長兼事務局長 杉田 房之

日本での「日独協会」は、1911年（明治44年）10月30日に創立され、第一次世界大戦時は、暫時停会等あり、1945年まで存続しました。第二次大戦後、1952年（昭和27年）7月22日財団法人、2010年（平成22年）10月13日公益財団法人として継承されてきていますので、110年間の歴史があります。この間に日本各地に「日独協会」が設立され、現在では57団体となっています。当協会は、1996年（平成8年）6月設立され、今年25周年となりますが、全国的には若い協会と言えます。私は2012年に入会し、2014年に前任者の辞任を受けて、事務局長を引き受け7年が過ぎました。この7年間で振り返り、当協会の環境変化（主に会員年齢）を見てみます。

2014年当時、個人会員は131名（会員番号314番まで）、法人会員5社。現在（2021年4月1日）、個人会員117名（会員番号361番まで）、法人会員4社。個人会員は、この7年間で64名が退会され、47名入会されました。年平均約9名が退会され、7名弱が入会されたこととなります。年齢区分でみると、2014年4月平均年齢67.4才、70才以上65名でしたが、2021年4月平均70.9才、70才以上77名となり、平均年齢で3.5才増え、70歳以上が12名増で約66%を占めています。なお、男女数は、2014年男性89名、女性42名、2021年男性75名、女性42名で、女性の割合が増えています。会員減を食い止め、若年層の入会が望まれるところです。

特別企画①

会員の皆様からのメッセージ

**Die Eiche 千葉県日独協会創立 25 周年特別号の
発行にあたり、皆様から多くのご寄稿文を頂きました。
心から感謝申し上げます。
ここに原文のまま掲載いたします。**

ある『追悼の辞』より

名誉会長 平尾 浩三

第一次世界大戦において日本軍の俘虜となったドイツ将兵のうち、30名の方がたが、ここ習志野の地で亡くなられた。毎年、秋にはその方がたのための慰霊祭が催される。当協会の会長（第二代）を務めた頃、私も当協会を代表して、年ごとに『追悼の辞』を捧げたものである。その『追悼の辞』の記録から、ここに少しばかり、引用することにしよう：

……第一次大戦において、日本は当時結ばれていた日英同盟に基づき、ドイツと戦い、ドイツの租借地であったチンタオを攻略し、約四千七百名のドイツ将兵を日本へ移送したのですが、その内の千名近くが、ここ習志野の地に収容されたのであります。

そのような次第で、ここに設置されていたのは、確かに「俘虜収容所」でありました。しかし第二次大戦に見られたような、そして今日なお跡を絶たないような、悲惨と残虐の世界を、そこに思い描くべきではありません。俘虜として暮らすドイツの方がたの毅然たる生活態度と秩序愛に、私たち日本人は感動し、俘虜の方がたの行動に接して、私たちはいよますますドイツ文化を愛し、尊敬するに到ったのであります。国際政治的次元における対立関係にもかかわらず、両国民間の人間的友情は、この体験によって、いっそう深められたのであります。

エピソードを一つ申しましょう。わが日独協会の理事（当時）歌田 實氏のご母堂は、この地の小学校教師であられましたが、生徒たちを連れて収容所をしばしば訪問され、異国に暮らす俘虜がたの心をお慰めすると同時に、生徒たちがヨーロッパ世界を垣間見る機会をお作りになったのですが、ある俘虜の方から、手作りのボトルシップを、つまりビンの中に船の模型の入った工作品をプレゼントされ、それは今日なお習志野市庁舎に、大切に飾られているのであります。

俘虜の方がたは大部分、戦後、無事に帰国なさったのですが、約三十名の方がたは、暴威を振るったスペイン風邪の

ために、二度と祖国の土を踏むことなく、悲しいかな、ここ習志野の地に亡くなられました。異国で斃られた方がたのご冥福を祈り、全地球上に平和の訪れんことを、切に、切に願いつつ、私たちはきょう、この墓標の前に立つ。そして遥けきドイツ・シュヴァルツヴァルトより移し植えられたドイツ柏の、下に佇む。

（中略）

終わりに、私の個人的な思い出を一つ記しましょう。ここに祀られている方がたと共に俘虜としてこの地に過ごし、第一次大戦後帰国されたが、後に再び来日し、亡くなるまで大学教授として日本で暮らされた、あるドイツ人学者を、私は幼年時代から、直接に存じ上げておりました。いつも多くの日本人の友人や弟子に囲まれておられたその方が、私たちに教えてくださった詩から引用致します：

Und so lang du das nicht hast,

Dieses: Stirb und werde!

Bist du nur ein trüber Gast

Auf der dunklen Erde.

J.W. v. Goethe

死して、新たなる生に、生まれ出でよ！

そを為（な）してこそ、君は

暗き地上の

悲しき客人（きやくびと）に、あらざらむ。

ゲーテ

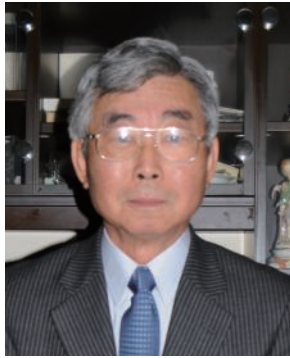


船橋市宮習志野霊園にある慰霊碑

「ボトルシップ研究会」のこと

名誉会長 宗宮 好和

習志野市教育委員会が総力をあげ、内外の関係者からの証言や資料を集めて特別資料展『ドイツ兵士の見たNARASHINO』を開催したのは2000年1月、翌2001年12月には『ドイツ兵士の見たニッポン』が発行されました。それから10年程して、習志野市の調査はその後行われておらず、折からの新市庁舎建設に際して特別資料展のために集められた資料の多くは散逸してしまったと耳にしました。このとき、それはよくない、あとは千葉県日独協会がやるしかない、と思ったのが発端でした。協会発足の契機となったドイツ兵士慰霊祭の30の御霊とその戦友たちのためにもまだまだ明らかにすべきことがあると思えたのです。



それからまもなく「ボトルシップ研究会」を立ち上げて声をかけたところ第1回には15名が集まりました。まずは『ドイツ兵士の見たニッポン』をテキストにして各章ごとに担当者を決めて次回から内容紹介・解説・質疑をすることになりました。須古 正恒座長の案内で所縁の町並みを歩く企画もありました。西郷所長が寄宿して馬で収容所に通っていたという神社の宮司さんを訪ねることもありました。母屋の襖の向こうに「祖父がつけていた日記があるかもしれない」と聞かされながら、調べていただくことは叶いませんでした。研究会のほうは会員制の縛りを設けなかったせいか、各自がテーマを決めて調査するという段になると参加者は半減してしまいました。それでもソーセージの製法のこと、ユーバーシャル教授のこと、西郷所長のこと、内房のある練乳会社で技術指導に行ったという兵士のことなど、各自がテーマを抱えて関係先に足を運ぶという熱意を示しました。2014年には研修旅行「鳴門市ドイツ館・板東俘虜収容所跡訪問」が実現し、17人が参加しました。

「ボトルシップ研究会」が始まってから、少なくとも3人のドイツ人との交流が始まりました。Dr. J. T. ニッケル氏（「アイヘ82号」参照）、E. グローセ氏（同113号）、Dr. I. リューアスさん（同96号、116号）で、いずれも習志野に収容されたドイツ兵の孫にあたる人たちです。グローセ氏からは115枚の写真を譲り受けました。女医リューアスさんの論考『祖父ユリウスの体験1913-1920』は『エーリッヒ・カウルの日記』とともに協会のホームページに掲載されています。この二つの翻訳にはいずれも熱心な人たちが参加し、「ボトルシップ研究会」の活動の形ある成果となっています。皆様にぜひ読んでいただければ幸いです。

今後はぜひ若い世代の皆さんに後を引き継いでいただきたいと切に願っています。

改めて気付いた国家と個人の相違

名誉会員 田久保 忠衛

二十五年前の会の創立に関係しましたが、以後会員のみなさんと接触する機会が稀で、申し訳ないと常に思っております。一言で言えば私に時間がないからですが、そんな言い訳を語る代わりに私がいままで辿ってきた人生、その中でドイツとのかかわり合いをお話したいと思います。

歩んだ道は三つの時期に分けられます。大学を卒業してから通信社の記者として働いた二十七年間。大学で若い学生に国際政治を教えた二十三年間。七十五歳で大学を辞め、櫻井 よし子さんと一緒にシンクタンクを設立し、現在に至っている十三年間です。第一の通信社時代にハンブルク特派員、返還前の沖縄支局長、ワシントン支局長、ワシントンのウィルソン研究所での研究が海外生活でした。おびただしい量のニュースや解説を書いてきましたが、そこで得た貴重な体験があります。ハンブルク、那覇（私がいた時は返還前でした）、ワシントンの三地点から観察した国際情勢はそれぞれ異なるという事実です。

二十七歳で初めて訪れた外国は、当時の西ドイツのハンブルクで、DPA通信にあった支局が主な仕事場でした。返還前の沖縄はまさに「ゆがわい」（世変わり）の激動期でした。ワシントンでは日米経済戦争の真只中で、その後両国関係が落ち着いてきたと思ったら、突如としてニクソン大統領の訪中発表がありました。佐藤 栄作首相が発表の数分前にワシントン大使館からの報告を耳にし、慄然とした面持ちだったとあとから聞きました。

ハンブルクにいた時には西ドイツの情報を記事にしました。おもなニュースは西ドイツとそれに関連した欧州の問題に限定されました。ワシントンから世界を展望すると、モスクワ、北京、ロンドン、東京と、米外交が影響を及ぼす国々がすべて取材の対象になります。世界的な規模で外交を展開しているワシントンにとっては、ボン（当時の首都）も東京も北京もワシントン・オブ・ゼムになります。ですからニュースを視る角度が米国と他の国々ではとくに異なります。

いま米国とドイツの間で問題になっているのは、ドイツがロシアから天然ガスを運ぶ「ノルト・ストリーム2」というパイプラインの建設です。クリーン・エネルギーを唱えてきたメルケル首相にすれば当然の建設ですが、ロシアや中国と対立している米国にとっては「ドイツは西側全体の安全保障を考えているのか」との不満になります。トランプ前大統領はあからさまにドイツを批判し、バイデン大統領も反対の意向を表明しました。ドイツ人も米国人も個人間の交際では素晴らしい人々がいるのがわかります。ただし、国家ベースではなかなか複雑で、簡単な結論は下せません。個人と国家は別、というのが私の得た教訓です。ただし、個人同士の固い結びつきが、国家間の危機を救う役割を果たす事例は少なくありません。日独協会の意義はすこぶる重要だと考えております。

（杏林大学名誉教授）

『ドイツに親しむ三日間』

名誉会員 橋口 昭八

『ドイツに親しむ三日間』は千葉県日独協会活動の大きなステップでした。

その頃ドイツ大使館の助成文化事業「日本におけるドイツ2005/2006」が実施され、『ドイツに親しむ三日間』はその協賛行事として1年半の準備期間を経て2005年10月20日14時に秋晴れに恵まれた会場となる千葉大学「けやき会館」前で、当時のフィッシャー公使、中沢千葉県総合企画部理事、木村（財）日独協会副会長（故人）、平尾当会会長によるテープカット、千葉大学カルテットによるドイツ国歌、君が代演奏で幕が切って落とされました（下写真）。



- ・三日間の入場者数は招待者60名と御宿町からバスで参加の20名を含め延べ1,000人を数えた
 - ・行事は三日間にわたり①写真・資料展「ドイツと千葉県」②大ホールプログラムとして講演、映画、日独学生討論会「壁」、ピアノ演奏、ギター演奏とヨーデル③ドイツ観光案内・バザー等が組まれた
 - ・行事内容には参加者からも高い『ドイツに親しむ三日間』の
リーフレット
評価を得ることができた、9月には発行部数210万枚の「千葉県だより」で広告され、初日には千葉テレビの取材を受けた
 - ・動員されたボランティアは延べ120名に上り、行事遂行に大きな力となった
 - ・共催者の千葉大学、後援のドイツ大使館、千葉県、（財）日独協会（当時）の一致協力の特筆できる
 - ・県下の市町村等と親密なチャンネルが築かれ当会活動の強力なベースができた
- 何にも増して重要な事は、参加運営に当たった当会のグループが、今ある活動の原点となった事です。



以後入会順に掲載いたします。

千葉県日独協会創立25周年によせて

伊藤 光昌

千葉県日独協会が設立25周年を迎えるに当たり、心よりの祝意をのべさせて頂くと共に、関係者皆様の長年にわたる協会運営へのご努力に、会員として敬意と謝意を表します。

ドイツと私の関係は、1963年10月の西ベルリン滞在から始まります。当時のベルリンは、冷戦の縮図で、ベルリンの壁を挟んで東西勢力が対峙し殺伐としておりました。私の下宿は、4カ国管理下の米国占領地区*、戦前戦中のベルリンの中心地であり、ベルリンの壁に約200m、東ベルリンへの入口“チェックポイントチャーリー”に徒歩5分の所に位置しました。下宿の道を挟んだ向こう側には、戦火で崩壊したアンハルターバーンホーフの残骸が立っており、あたり一帯は片付けられていたものの、市街戦の生々しさをまだ残していました。



1963年11月チェックポイントチャーリー
西側から東ベルリンを望んで



1963年11月アンハルターバーンホーフの
残骸（左）と戦火跡

- * 1948年～1990年の間、ドイツは米英仏ソ連の4ヶ国管理下に置かれた
- ・米英仏地区を西ドイツ、ソ連地区を東ドイツと呼んだ
- ・東ドイツ内に孤島として存在したベルリンも4ヶ国管理下に置かれ、米英仏地域を西ベルリン、ソ連地区を東ベルリンと呼んだ
- ・ベルリンの壁は、東西ベルリンの境界線に沿って建設され、1961年～1989年の間存在した

1963年11月22日のケネディ大統領暗殺の報は、ベルリン市民と同様、ベルリン滞在の日の浅かった私にも、西ベルリンは、西陣営として残れるのか、大きな不安を与えました。その日の夕刻、ツォロギンシャーガルテン駅前広場に集まったベルリン市民は、ローソクに火を点し、同年6月26日にケネディ大統領が、演説した市役所広場迄の無言の「追悼行進」を行い、私も参加しました。心に残る出来事の一つでした。

夕刻、ベルリンの北部を散歩していた時の事です。東ベルリン側から、シュルシュルと音のする非常に明るい火の玉が上がったのです。その直後、銃声が響き渡り、東から西への逃亡者への発砲でした。私が実際に銃声を耳にしたのは、滞在中この一度でしたが、当時の“Bild”紙は、逃亡を試みた多くの市民が、東ドイツ国境警備隊により逮捕されるか、

（次ページへ続く）

(前ページより)

射殺されるか、或いは東西ベルリンの境の運河を泳いで力尽きて溺死したと報じていました。

突然、ソ連のミグ戦闘機が編隊を組んで、西ベルリンを低空飛行し、その騒音と振動は想像を絶しました。それにより、老人が衝撃死したり、私の下宿の上階の窓ガラスが割れたりしました。西ベルリンで西ドイツ政府主催の催し物が行われると、それに対する東側の威嚇と嫌がらせであったのです。西ベルリン滞在の3年弱で、2～3回この様な体験をしたでしょうか。



1964年6月17日 統一の日 ベルリン市役所
ワイリーブラント市長 演説

西陣営は、西ベルリンを保持するために、文化面で非常に力を入れていました。特に音楽界では、クラシック及びポピュラー分野で、世界の一流演奏家が、西ベルリンに集結し、その陣容は絢爛豪華でした。一方、東ベルリンは、それに対抗するかのようにソヴィエト連邦及び東欧圏の演奏家を招集、東西ベルリンは、政治的緊迫とは裏腹に、一大音楽文化圏を形成していたといえます。

1968年9月、私は、フランクフルト アム マイン市の現地法人駐在員として、再びドイツの地を踏みしました。ドイツでの生活は、文化による考え方の差を認識し、それを意識しなくなった時点から、個と個の付き合いが可能になり、事業も円滑に運営できるようになりました。そして、東西ドイツで公私にわたり多くの知己を得た事は、私の人生における大きな財産となったのです。

千葉県日独協会設立後25年が経過、その間両国の世相も変わり、それにより、ドイツ人及び日本人夫々の考え方も、当時とは様相を異にしている様に思われます。その変化を旨く表現できませんが、国際化が進んだことにより、ドイツ、日本の括りではなく、個と個の関係となり、其の個がドイツ若しくは日本文化を背景に持つということになるのでしょうか。

千葉県日独協会の活動が、次世代、次々世代に受け継がれて、協会を通じての日独の親交がさらなる相互理解につながることを、心から祈念いたします。

千葉県日独協会設立25周年記念誌寄稿文

理事 内藤 敏子

ドイツとチターを愛された初代会長の加藤 吉昭先生は、千葉県に日独協会を設立したい思いを常に熱く話っておられました。1990年12月にチター界の巨匠ルディー・クナープル市川公演、翌年に先生が会長を務められた「船橋にまちかど文化を育てる会」発足記念内藤 敏子演奏会、続いてドイツ人チター奏者オスワルド・ツァーン船橋公演他を開催し、どの企画も盛況で千葉県日独協会設立に向けての大きな一歩であったと思います。

千葉県には第一次世界大戦習志野収容ドイツ軍人慰霊碑がありますが、明治6年に行われた陸軍近衛兵対抗演習を指揮した私の曾祖父篠原 国幹少将の指揮振りに御親臨の明治天皇は感動され、「篠原に習へ」のお言葉を発し、この地を「習志野原」と命名されました。市川市在住で名誉会員であられた東山 魁夷画伯夫妻もチターをこよなく愛され、長年にわたり私の活動を応援下さったことなどから、加藤先生は「このようなご縁からも入会を」とお声をかけてくださり、設立時から理事にさせて頂いております。

1997年6月28日(土)より「チター演奏とドイツワインの集い」が銀座アスター津田沼賓館などを会場に開催され、演奏後にドイツのワインやビールを楽しみながらの語らいは人と人との温かな交流の場でもありました。12年間継続できたのも、加藤 吉昭先生、平尾 浩三先生、皆さま方のお支えが力となりました。コンサートはソロ演奏、門下生たちとのチターアンサンブル、ドイツの民族楽器ハックブレットも取り入れ、ドイツ古謡に民謡、チターのオリジナル曲、モーツァルトなどのクラシック曲を演奏し、ドイツやスイスに長年滞在した際のエピソード紹介などで綴られました。2005年10月に「ドイツに親しむ三日間」が千葉大学けやき会館で開催され、チター演奏者10名、ヨーデルにアコーディオン、ハックブレットも加わり、色鮮やかな本場ドイツの民族衣装を全員が着用し、ドイツの薫り漂う音色に包まれた唯一無二の公演でお役に立たさせて頂きましたことを誇りに思っております。2006年12月に写真展「ドイツと千葉県」がドイツ大使館で開催され、その閉会式とクリスマスパーティーに於いて、ドイツ大使を中心に大使館員とそのご家族、関係者など200名近くが集うなかで30分ほど演奏し、故郷ドイツの調べに感動いただけましたことも良き思い出のひとつです。

千葉県日独協会設立25周年を祝し、益々のご発展と活動を心から祈っております。



バイエルン州ツェートマイアー文化芸術大臣に
チターを教授する筆者

千葉県日独協会とドイツ愛唱歌

二宮 一男

私が東京に転勤したのが1971年で、入団した合唱団のドイツ演奏旅行が3年後と決まっていた、ドイツ熱が高まりました。ドイツ語も習いましたが、「ベルマンズ・ポルカ」などのドイツレストランでアイスバインを食し、歌を堪能していました。千葉県日独協会の設立が1996年で迷わず入会しました。当時の行事がチター演奏会、習志野霊園の慰霊、ビール祭りでした。ビール祭りではアコーディオンが入り、ドイツの歌が演奏されていましたが、次第に全員合唱に発展していきました。

私も「ドイツ愛唱歌」をいろいろ勉強しました。そして2004に千葉県日独協会の「集いの歌、A5版24ページ」を出稿、その後も歌詞の抜粋版でビール祭りやクリスマス会で、みなさん全員と歌うようになりました。

この歌集完成までには、シンキョウ社「ピア・ヘアー」、ヘフリガーのCD「日本の歌曲を歌う」、THIASOS出版「日本のむかしの歌、いまの歌」などから日本の歌のドイツ語訳詞も集めました。そして「乾杯のうた」のドイツ、オリジナルとその歌詞の発見なども成果のひとつです。

(注) 千葉県日独協会「集いの歌」

<http://nino-netowl.com/JDG-Lieder.html>

ドイツのカーニバル

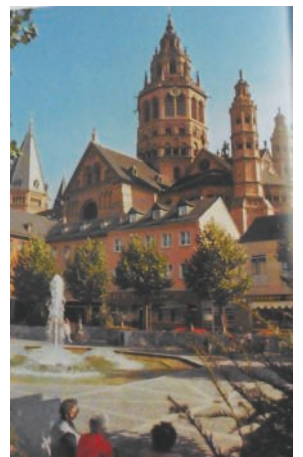
理事 松江 美代子

マインツでは、カーニバルのことは、ファスナハト (Fasnacht) あるいはファッシング (Fasching) という。木曜日から水曜日までの一週間、昨年は、二月二十日から二月二十七日まで。カーニバルは、古語ラテン語のCarnelevare (肉よさらば) に由来する。最終日の灰色の水曜日から四〇日間、肉を断つカトリックの習慣がある。だからその前に、みんなで飲んだり食ったりして大騒ぎするのだ。中でもローゼンモンターク (バラの月曜日) は、町中で生きる喜びを謳歌して、盛り上がる。ローゼン (Rhosen) は方言で、「はしゃぎまわる」を意味するらしいが、断食中に、法王がバラを贈ったのが月曜日だったからともいわれている。

四十数年前、ローゼンモンタークにケルンへ行った。街は、地元の人だけではなく、観光客など百万人以上の人で溢れていた。政治批判をテーマにしたトラクターやトラックを改造した、ツーク (Zug) と呼ばれる山車が次から次へとやって来る。各地区を代表するもの、有名会社の看板を掲げたものなど。山車の上に、この日の主役が現れると拍手がおこった。「あの真ん中の人は、ケルンの市長、あれは、プリンス (Prinz) と農夫 (Bauer)、乙女 (Jungfrau) だよ」ツークが進むと、バトンガールやナーレン (馬鹿者) を象徴するという二ワトリをあらわした赤い帽子をかぶったおじさんたちが、手を振りながら行進する。山車の中には、四頭だての馬が引いているものもある。綺麗に着飾った馬は興奮しながら、カッポ、カッポと勢よく歩いてくる。迫力満点。護衛隊の衣装の人や顔いっばいにフェイスペインティングをしている人、みんな「アラーフ」と大声を発しながら、両手いっばいにアメやグミ、あるいは花を抱えて、道を埋め尽くす見物客にばらまいて歩く。

マインツでも、ケルンと同じように、その時の政治や経済をなじるプラカードを掲げた山車が町中を練り歩く。山車の上から、アメやグミを見物客に向かってなげる。「ヘラウ、ヘラウ」と叫びながら。そう、マインツでの掛け声は「アラーフ」ではなくて、「ヘラウ」なのである。見物客は、ちょうだい「カメレ」と言いながらアメを受け取る。正式には祝日ではない。しかしそこは、無礼講。多くの市民が参加している。

日本では、新型コロナウィルスのニュースで、みんながその恐怖に震えている。観光地が閉鎖されるという噂がある中、マインツでは昨年はファッシングが行われたと聞いて、何だかほっとした。



マインツの大聖堂

復刻版「集いの歌」 2017年12月



Die Eiche

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Pfalzstadt Chiba
9.034 92710522 K1616H12P1 2481 千葉県千葉市中央区
Phone: 047-467-4111 Fax: 047-467-4123

「集いの歌」初版2004

Liederschatz

松本寛幸 (撰) 二宮一男 (編)

曲目	10) Muß i' denn
1) Ein Prosit	11) 故郷を離れる歌
2) Trink, Brüderlein trink!	12) きよこのよる
3) Deutscher Rhein	13) もみの木
4) Glück auf	14) Happy birthday to you
5) 野ばら	15) エーデルワイス
6) 菩提樹	16) Dona nobis pacem
7) ローレライ	17) Steinsong
8) 眠りの精	18) ホフプロイハウスの歌
9) よろこびの歌	19) ドイツ国歌

千葉県日独協会設立25周年に寄せて

理事 綿貫 尚

月日の経つのは早いものでもう25年ですか。この長老入会より天下のご意見番として嫌がられて来ました。第二外国語はフランスで愛を語るに熱中した男が何を間違ったかドイツに嵌ってしまいました。犬を叱るのがドイツ語で“ドッホ”、愛を語るのがフランス語、美味しい料理は日本女性（これは惚り）言葉の上達は女性を口説くに失敗した男。

1970年から5年間ドイツデュッセルドルフ村から始めてドブリン、ドイツに入り込みました。初代会長加藤先生から始まり平尾さん（和歌の会宝珠）、歴史を変えた329日の宗宮さん、シュナップスドイツの国枝さん、ドイツ通の橋口さん、クリスチャンだった館野さん、哲学者の尾田さん等々多士済々でした。ハイライトは初回デュッセル訪問でしょうか。小野氏チター演奏会他色々の行事も思出です。

時代は変わり新しい形の日独協会。ご発展を望みます。



2006年5月21日 デュッセルドルフにて
(筆者最後列右から3番目)

千葉県日独協会創立25周年を迎えて

理事 木戸 芳子

東京在住の私が当協会に入会させていただきましたのが2002年10月ですので、ほぼ20年間皆様にお世話になっています。恩師、平尾 浩三先生から入会のお誘いをいただきましたことに、今でも感謝申し上げます。

様々な行事、Düsseldorfの日本デーに向けた独逸旅行や、平尾先生、子安 美知子先生、現レーベル大使ほか日独と関係の深い方々の講演は興味深く、貴重な知見が得られました。

習志野のドイツ人墓地にお参りする機会には、日独関係ばかりではなく、同じ場所にあるロシア兵の慰霊碑にも心が向き、平和を希求し、地道に尽力してこられた方々におのずと感謝の念が湧いて参ります。また千葉県の高校生との交流では、新鮮な気持ちに触れ、今後の展望につながるものと感じ強く思います。



東京音楽大学勤務時代、私のクラスでドイツ語学習に励む飄々とした学生さんが、当協会関連の演奏会で指揮をし、若きバイオリニストのシューマン氏と共演。聴衆である私には印象深いものでした。当協会の行事の一つ、ドイツ語講習会にも講師、受講生として参加させていただき、感謝。今後も勉強会がオンラインで続行され、会員の親睦にもなればと期待。

当協会のますますの発展を祈念しております。

千葉県日独協会との出会い

吉田 千賀子

2002年、新世紀は未だ始まったばかり。当時私が所属する合唱団は、その夏ドイツウルム市から来日する30名近い弦楽合奏団の受け入れ準備に追われていました。当初ホームステイのみのご希望が直前になってやはり合同演奏会を持ちたいとお申し出があったからです。曲目選定、会場確保、費用捻出etc.々々。その過程で始めて“千葉県日独協会”というお名前を耳にいたしました。



一面識もない平尾会長に図々しく面会を申込み、ご後援、ご寄付をお願いしました。日独交流の為に是非と。「この会はその間に金が無いですよ」とおっしゃり乍らも快く対応してくださったことを今も懐かしく思い出します。この時現会長金谷さんが、“オリゴのおかげ”の試供品を大量にご寄付くださり、それを売って費用にいたしました。八千代市もホールを無償提供して下さるなど、多くの方々のご厚意に依り演奏会開催に漕ぎつけました。

当日は、今は亡き國枝副会長、金谷さん、通訳として新進気鋭の堀江さんが見えられ、終演後の打ち上げ会も和気藹々。二日間を共に過ごした私達は互いに別れ難く、二次会の指揮者宅では肩を組んで“Muss i, den”の大合唱となり、“Musik kennt keine Grenze!”を実感しました。この団の引率者ウルム在住の音楽家 杉本 暁史夫妻は、日独音楽文化交流・草の根運動の推奨者であり、彼等はこれからひと月余りを日本各地で、ドイツ音楽を披露するのでした。この運動の一環として、1987年、私達はドイツに招かれ、ウルム、ボン両市で演奏会を開いており、以来双方の交流が続いておりました。

さて、協会に大変お世話になった私は、少しでもお役に立ちたいとの思いから、早速入会申込をいたしました。後年に至って、この協会へ入会するには、2名の推薦人を立てしか審査までであると知りガク然！時すでに遅し。然し心優しき方々は、勝手に入会して来た私にそれは温かく接して下さり、またここで過ごした上質の時間は、他所では決して得難く、数々の思い出と相俟って、今も私を幸せな気持ちにしてくれます。この誌面をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。そして愛する千葉県日独協会が、これからも益々発展して参ります事を心から願いつつ、拙文を終ります。有難うございました。

研修旅行でこんなことも…

小野 浩

千葉県日独協会に私は2004年の入会である。ドイツ在住経験のない私だが、日独協会のおかげでたくさんのドイツ通に巡り合え、ドイツを幅広く知る機会に恵まれたことは大変ありがたい感謝している。

協会では主に行事の企画を受け持ち、2年ごとのドイツ研修旅行には5回参加した。いずれも印象に残る意義深いものであった。とはいえ旅にはハプニングがつきものである。一度こんな出来事があった。

2016年の創立20周年記念旅行は、「デュッセルドルフ・日本デーと古城街道」がセットされた。その頃世界は政情不安で、旅行に先立ち外務省の渡航先安全情報の確認が必須であったが、ドイツに関しては特別な危険情報はなかったので、予定通り出発することとした。旅行は5月20日～29日で、幸い道中何事もなく無事帰国することができたのだが、その後ドイツからのニュースに身の毛がよだつ驚きの記事があった。

帰国直後の6月2日、ドイツ検察当局は、ISの指示を受けデュッセルドルフ旧市街で自爆テロを計画していたシリア人3人を逮捕したと発表した。3人は市の中心部で、2人がベストに装着した爆弾を起爆させて自爆し、他の1人が通行人を銃や爆発物で殺害する計画を立てていた、とニュースは伝えていた。滞在中のデュッセルドルフ・日本デーをターゲットにした自爆テロと思われ、危うく事件の巻き添えを食うところだった。未遂事件だったとはいえ背筋の寒くなる思いはまさに時折脳裏をかすめるのである。

日独友好150周年記念菩提樹

理事 北村 侑三郎

2011年日独友好150周年記念行事の一環として、ドイツ連邦共和国大使館から、ドイツN・W州原産の菩提樹の苗木30本が当協会に寄贈されました。苗木は、千葉県内の13ヶ所に配送され、2011年10月から11月にかけて植樹された苗木が、その後どの位大きくなったか、また枯れていないか、観察がてら写真を撮るため、私は2015年10月18日から電車、バス、ある時はタクシーで、植樹先に毎年のように行き菩提樹を見守って来ました。しかし残念ながら、30本の菩提樹が5本も枯れて25本になりました。私は、菩提樹にどんな肥料が適しているのか、また土壌改良について聞かため、予め千葉市都市緑地植物園に行って、色々と助言を頂きました。植樹された菩提樹が健やかに成育し大きくなった富津の老人ホーム望みの門富士見の里、市川の



千葉県がんセンター 2017年7月17日撮影
切断された根元の側から新芽が出ている

東山魁夷記念館、里見公園などは、数年後には淡黄色の花が咲くのではと楽しみにしています。成育の悪い菩提樹もありますが、すこし草を取るよう、また肥料をやって下さるようお願いしておりますが、特に気懸りなところは、2016年8月27日に2度目の千葉県がんセンターに行った時、1.7メートル位伸びていた苗木が、根元から切断されていたのです。当センターの管理課長に電話し、その旨お伝えしたが、全然知らなかったとのこと。私は管理課長に根元から切断に至った経緯を調べて頂き、その結果を文書で、千葉県日独協会に郵送されるようお願いしました。その後、病院院長名でお詫びの文書が郵送されてきましたので、橋口菩提樹委員会会長に転送しました。2017年7月17日、3度目の千葉県がんセンターに行った時は、切断された根元の側から新芽が出ていましたので、ほっとしました。2018年6月10日、4度目の千葉県がんセンターに行った時は、新病棟増築工事が始まり、広く柵がしてあり、中に入る事ができませんでした。あれから4年近くになりますが、出ていた新芽が現在どんな状態なのか心配しています。2019年7月18日に2度目の御宿小学校に行った時、菩提樹は0.7メートル位の所から折られていました。校長先生からこの菩提樹は全然成育が悪いがどうしたら良いかと聞かれたので、私は土壌改良するよう申し上げておりますが、その後、どのようにされたのか心配しています。

記念菩提樹が植樹されて、10年近くになりますが、成育の悪かった菩提樹も根付いて順調に大きくなってきています。これからは、皆さんで植樹先に出向いて、関係者の方々に寄り添って、記念菩提樹を見守って頂きたいと思います。



御宿小学校 2019年7月18日撮影
大きくならない菩提樹

Organische Chemie, eine Brücke zwischen Chiba und Deutschland

太田 明廣

何であれ歴史を知ることが意義あることと思ひ、千葉出身の落合 英二先生を紹介させていただきます。私は1952年県立千葉一高卒、名誉会員の橋口 昭八さんと同級生で、彼の誘いで昔本会に入会致しました。高校時代、化学が好きで、化学部に属し、サッカリン、ズルチン、マーキュロなど幾つかの有機化合物の合成を楽しみました。顧問の楠原 繁次郎先生（あだ名はケチョン）は旧制千葉中を経て千葉薬専を卒業された、化学実験の名手でした。私に化学が好きなら薬学に進学しろ、東大には旧制千葉中先輩の落合先生がおられるとおっしゃられ、大学入学後も年賀状の往復を続けました。私は薬学に進学し、落合教授の薬化学教室で卒業研究を行い、千葉一高の同期で、一緒に進学したのですが、駒場生活を一年余計に楽しみ、落合先生の教室で卒業研究を行った野村 容朗氏と共に落合、太田、野村の連名で研究結果が学会誌にドイツ語で発表されました。其の後、私は生薬学教室で博士課程を終え、理化学研究所の落合研究室で研究生活に入りました。

落合先生は1916年に旧制千葉中、仙台の第二高等学校を経て1922年に東大薬学科をご卒業後、東大助手に採用され、1930年にはFreiburg大学のStaudinger教授の下に留学なさいました。Staudinger教授は高分子化学の創始者として知られ、ノーベル賞受賞者で、1957年には日本薬学会総会にご出席のため来日しています。落合先生は元素分析の技術を日本に導入され、世界大戦後、ドイツに招かれるなど幅広くご活躍になりましたが、特に芳香族アミンN-オキサイドの研究の評価は世界的に高く、御著書のAromatic Amine Oxidesは有名です。1963年には宮中の講書始でアルカロイドについてご進講され、1969年には文化勲章を受章されました。私はAlexander von Humboldt StipendiatとしてMünchenに1964年から2年半、それも落合先生の知人であるHuisgen教授の下で勉強しました。Huisgen教授は1,3-Dipolare Cycloadditionという反応を開拓した有名な方ですが、2020年3月、100歳を前に亡くなりました。私はドイツにHeimwehを感じ、今も何人かのドイツの化学者とクリスマスカードの交換を行なっています。落合先生のお世話になった化学者は千葉にも沢山おられます。思い出は尽きません。

入会から15年

理事 須古 正恒

あれから間もなく15年。JDG千葉の“厳しい入会面接試験等”を経て、入会出来たのは2006年8月4日でした。晴れて会員になった喜びも束の間、“新人（年齢不問）は汗をかけ”と心優しい事務局長や先輩会員から叱咤激励を受け？頭は弱いから、体で勝負とばかりに雑巾がけ、使い走り、受付、誘導、力仕事等、“楽しく”冷や汗をかきました。

その後、2011年2月11日にボトルシップ研究会が発足し、その事務局を務めていますが、現在コロナ禍で休眠中です。研究会の課外活動で2011年5月21日、JR津田沼駅～習志野俘虜収容所跡～実刑街道～稲毛浅間神社まで、ドイツ俘虜が歩いた道を行進・散策したのは良い思い出です。それから、同研究会のドイツ語にも堪能な数人の会員は「祖父ユリウスの体験1913～1920」や「エーリッヒ・カウルの日記」を翻訳し、素晴らしい成果を上げられました。

2012年に当協会での親睦日帰り旅行が2年ぶりに復活し、その後、私も世話役の一人として下見をしたり、俄かバスガイド兼添乗員になったりして、汗たらたでした。

それから、私が担当しましたビール祭りやクリスマス・忘年会等の手配・準備・司会も、皆様のご協力で、楽しく嬉しい汗をかきました。

当協会も創立25周年を迎え、役員もニューノーマル時代に相応しい世代交代が進んでいます。50周年に向けて益々の発展を祈念しています。



2011年5月21日 JR津田沼駅にて
(筆者一番右)



ドイツ捕虜オーケストラの碑にて

ドイツ語講習会について

理事 岡村 三郎

私はこれまで数回、日独協会のドイツ語講習会を担当しました。

最初は1997年に開催された入門クラスです。場所はある会員の事務所（船橋駅近く）をお借りしました。参加者は若い人から年配の人まで多彩でとても熱心でした。今でも参加者の皆さんをよく覚えています。

その後、今度はいわゆる初級文法を済ませた人を対象に短い物語を読む内容で講習会を担当しました。大学以外ではそういうテキストを読む機会もあまりないのではないかと考えたからです。これらのコースにはドイツ語歴の長いいわば猛者も参加してくださいました。私は難しい質問をいただき答えに悩むことがしばしばでした。ただ残念なのは一回で進めるページ数が限られ、設定された回数でテキスト全部を読み終われないことでした。最初（2014年）に読んだReiner KunzeのDer Löwe Leopoldは残念ながら途中で終わることになりました。次に（2018年）やったDer Drachen Jakobも所定の回数では終わりませんでした。参加者の同意をいただいて自主的に1回延長しなんとか読み終わることができました。（日独協会が融通を利かせて講習の場所を確保してくれました。）皆さん熱心に最後まで参加していただきました。

最近（2020年から2021年にかけて）はElke HeidenreichのNero Corleoneを読みましたが、コロナの関係もありZoomを使ったりリモート・コースになりました。私はZoomを使った授業は初めてでしたが、非常に有能な理事お二人のご協力をいただきなんとかやり遂げることができました。2020年秋の講習ではそれほど進めなかったのが、参加者の間から「もっと読みたい」という声上がり、急いで2021年にも続きの講習を設定していただき、続けて読むことができました。

これまで担当したどのコースでも参加者の皆さんがとても熱心で、また好奇心が旺盛なのにいつも感心します。皆さんの興味深い意見や質問に私も教えられることがたくさんありました。



2018年度ドイツ語講習会（筆者前列中）

楽しい協会活動の再開を!!

～“コロナ禍明け”に願い～

理事 田中 正延

Die Eiche（カシウ・英 oak）。この協会通信の名前は素敵です。命名の由来もいい。ゲルマンの雰囲気も漂います。私はいま、その103号（創立20周年記念）と、100号記念号を飽かず眺めては読み返しています。私が編集した思い出深い誌面でもあります。



協会発足以来の歩みを記す年表。「ドイツに親しむ三日間」の事業、写真・資料展「ドイツと千葉県」、会員の教授による数々のドイツ語講習会・勉強会。2006年から実施された5回のドイツ旅行と事前勉強会。国内旅行や日独交流150周年記念の菩提樹植樹活動など。実に多彩な足跡が誌面から見て取れます。

図や年表に加えて、平尾 浩三・名誉会長や企画と実行に奔走した会員の寄稿文から、ドイツとその文化への「熱き心」がまっすぐに伝わってきます。催し会場の高揚感さえ立ちのぼってくるではありませんか。一つひとつが鮮烈な思い出として残り、協会史に華やかで実り多い成果を刻んでいるのです。

私が協会に入会したのは69歳でした。2年前に会社を退き、NHKTVやラジオのドイツ語講座のテキストを手。半世紀近い会社人生ですっかり縁の切れていた世界へ。だが、その試みにはなぜか、いま一つ身が入りません。

協会では、私のドイツ(語)をめぐる世界は劇的に変わりました。二人のドイツ人学生に日本語を教えた平尾先生の講義「日本語とドイツ語」。息子の於菟に森 鷗外が与えたドイツ語教科書について宗宮 好和・名誉会長が。土屋 有里先生の「音符にABCD…がある」という話から「ドイツ語で読み解く音楽の世界」。木戸 芳子先生の「ドイツ国籍取得テスト」はタイムリーで、はからずも移民をめぐる日独両国の違いも知ることができました。

ドイツ旅行の「事前勉強会」はみな、心躍るものでした。圧巻は、平尾先生による「中世への旅」。ヴュルツブルクの思い出、リーメンシュナイダーとルター、ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデとマネッセ写本。文学や歴史、教会建築などスライドとともに縦横無尽、変幻自在に展開される『ドイツ平尾劇場』に酔いしれたものでした。

ビール祭り、Xマス&忘年会。杯をあげドイツ民謡に声をからす。ここだけのgemütlichなひと時にどれほど浸ったことでしょうか。

Die Eicheの編集を、と私が望んだのはいつも協会活動の「現場」にいて「交流の遊び」を会員と共有したかったからです。充実した日々、感謝あるのみです。現在の誌面は、編集委員が協力し合い、内容が一段とレベルアップしました。嬉しい限りです。

恨めしきコロナ禍。活動が戻り、皆さんとの再会が待ち遠しい日々です。

創立25周年に寄せて

成田 久江

創立25周年おめでとうございます。

永年にわたる「ドイツ軍人慰霊祭」の継続、多くの興味ある事業の企画に参加し、ドイツについて学ばせて戴きありがとうございます。中でも優しい音色のチャターの演奏と講話は印象深く心に残っております。

さて私はこの5月まで市川市国際交流協会の会長を務めてまいりました。千葉県日独協会には「いちかわドイツデー」に後援して戴き「協会の活動」と「ドイツと千葉県」について写真展示、昨年はコロナ禍により中止となりましたが、8回目の参加と聞き心から感謝いたします。この事業は市川市とドイツのバイエルン州のローゼンハイム市がパートナーシティ締結し、相互に公式団・市民団の親善交流を深め日本文化の紹介、サッカー、青少年派遣などの一環として開催されています。

一昨年締結15周年でローゼンハイム市を訪問した時、ガブリエル・パウアー市長の挨拶で「人と人との繋がりは未来の重要な資本である」に共感し、千葉県日独協会がドイツに関係ある人たちが参加協力し若い人たちの活躍の場になっていることを嬉しく思います。

変貌する世界情勢の中でドイツについて、お互いが知識を提供し学び理解する団体として益々発展していくことを祈念いたします。



2017年5月総会記念講演
「市川市国際交流協会の歴史と今後」について

自転車も乗れる電車

理事 西阪 知晃

欧州を旅した折り、自転車を折りたたまずに持ち込める電車を目の当たりにして先ず驚いた。

通勤通学に便利であり、まさに自転車社会である。我が国においてはあの混雑状況を鑑みても理解出来るし、施設面においても現状では無理難題が多く、不可能に思える。しかし、これから先を考えると通勤通学する者が減ってゆくことは周知の通りであり、今の時点で施設の改善を計り、利用時間を考える等や自動車の利用を減らすなどして脱炭素社会にも貢献出来ると思う。近い将来こんな社会が訪れることを願いたい。

協会創立25周年特別号に寄せて

塚原 浩毅

千葉県日独協会に入ってからまだ日が浅く、また様々な催し物にもなかなか参加できないのが残念ですが、Die Eicheは毎号興味深く読ませていただいています。

ドイツの思い出にまつわる寄稿を読むと、私自身の懐かしい思い出も蘇り、青春の日々を懐旧するとともに、リタイアしたら改めて「あの町」「この町」を訪れてみたいという希望に浸ることができます。

夢にまでみた学生時代のバイロイト音楽祭訪問（1980）、夢にも思わなかったデュッセルドルフ駐在時代の「ベルリンの壁」と東西ドイツ統合（1989/90）、家族で久しぶりに訪れた時のミュンヘンなどの変わらぬ街並み（2010）。どれもこれも人生における素晴らしい経験をさせてもらいました。次にドイツに行くときは、今まで機会がなかった旧東ドイツの街々を訪れたいと密かに計画をしています。

今後もDie Eicheを通じ「ドイツ仲間」と通じ合えることを楽しみにしています。

片島 辰一郎会員から
お祝いのメッセージをいただきました！

*お名前： 片島辰一郎

*『Die Eiche』特別号に掲載するメッセージ：

創立25周年おめでとうございます。今後益々の発展をお祈り致します。

創立25周年おめでとうございます。

今後益々のご発展をお祈り致します。



2019年12月14日クリスマス・忘年会にて（筆者左）

25歳の年を迎える日独協会と自分

学生会員 理事 大野 亘児

今年で創立25周年を迎える千葉県日独協会、考えてみると、実は自分と同じ年なのです。(出生地は千葉県ではありませんが)自分が生まれた1996年、当協会も同時に誕生したのだと思うと、少し感慨深い気持ちになります。

自身が初めてヨーロッパ・ドイツの地を踏んだのは2016年、その後ドイツ語を独学で本格的に学び始めたのは2017年のことです。約25年の人生のうち、ドイツやドイツ語と関わりを持ってきたのは、そのおよそ5分の1の時間ということになります。5分の1という数字は少ないように思う一方、初の渡独から早5年が経ったのかという気もしてなりません。当協会の一員として仲間入りさせていただいたのは2019年、まだまだ日は浅いですが、今こうして創立25周年を迎えられたことに素直に喜びを感じられるのは、これまで数少ないながらも足を運ばせていただいた各種の講演会や交流会にて、長年協会におられる皆様が暖かく迎えて下さったからに他ならないと思います。

4月に発行されたDie Eiche No.130の記事から、25年にわたる当協会の歩みを垣間見ることができました。25年を節目にこれからも幅広いけれども親密な、千葉県日独協会らしい活動が展開されていくことを願っています。



ライブツィヒ・トーマス教会のバッハ像前にて

創立25周年によせて

学生会員 保坂 有里奈

創立25周年記念おめでとうございます！私自身も今年で25歳になるため、千葉県日独協会とは実は同じ年であることを知り、どこか不思議に感じつつも当協会のメンバーの一員になれたことを改めて嬉しく思います。私自身がこれまで親、周りの友人や先生等の支えによって成長してきたように、当協会も皆さま一人一人のご尽力によって、25周年を迎えることができたのではないかと存じます。

Die Eicheの「ドイツと私」において、皆様がどういう経緯で「ドイツ」に関心を抱いたのか、そしてこれまでどのような経験をなさったのかをいつも興味深く拝見しております。「ドイツ」というキーワードを通じて、繋がりが増えていくことをとても嬉しく思います。



ドイツ軍人慰霊祭との出会い

千葉県立津田沼高等学校 音楽科教諭 山岡 健

数年前、NHKのディレクター宮崎 将一郎氏から「なぜ、千葉県はオーケストラが盛んなのか？」と尋ねられたことがあります。たしかに全国的に見ても小学校にオーケストラ部がある県は千葉県以外にはありません。中学校と高校も他県に比べてもかなり多く、千葉県は「オーケストラ王国」と言われています。「なぜ、千葉県にはオーケストラ部が多いのか」その謎を解くヒントは、NHKの「その時、歴史が動いた〜第九誕生」という番組にありました。



番組の最後で日本での第九初演が徳島県にあった板東俘虜収容所内で、ドイツ兵士によって1918年6月1日に行われたことが紹介されていました。また、板東俘虜収容所でのドイツ人兵士との友好を描いた日独共同制作の映画「バルトの楽園」があることも知りました。その映画の中で、ドイツ兵の父を探す少女が板東の収容所を訪れ、松江 豊寿所長に「習志野にも行ったけど…」と話す場面があります。私が、初めて習志野にも俘虜収容所があったことを知った瞬間でした。習志野俘虜収容所については習志野市のホームページに詳しく掲載されており、約1000人のドイツ兵捕虜が第一次世界大戦時に広大な習志野原に建てられた収容所に拘留されていたことがわかりました。オーケストラをはじめとする芸術、酪農、ソーセージやワインの醸造など、さまざまなドイツの文化が約100年前にドイツ人によって千葉県にもたらされたことは間違いありません。

千葉県はデュッセルドルフ市と姉妹都市関係にありますし、前任校の千葉女子高校オーケストラ部も、2年に一度ドイツで公演を行っていることもあり、何か尽力できないかと考え、千葉県日独協会に連絡をさせていただきました。そして数年前からドイツ軍人慰霊祭に参加させていただくことになり、そこで「ドイツ国歌」や「兵士をおくる歌」などを演奏してきました。私は、この4月に転勤となりましたので、次回の慰霊祭からは津田沼高校オーケストラ部とともに参加させていただきたいと考えています。



2019年度慰霊祭全景

特別企画② 青壮年部懇談会

千葉県日独協会創立25周年を記念して、また第2部は日独交流160周年記念行事として、青壮年部竹内 優理事の企画により2021年6月19日(土)に青壮年部懇談会がオンライン(Zoom)にて開催されました。



なお第2部におけるドイツ人参加者は、千葉大学卒業生の大野 亘児理事の声掛けにより、同大学に留学していた学生中心に、ドイツと日本から参加しました。

- 第1部：千葉県日独協会の未来
16時～16時45分
参加者15名(青壮年部員・運営委員)
- 第2部：日独交流160周年記念行事・
日独若者シンポジウム
17時～18時
日本人参加者12名
(青壮年部員・運営委員)
ドイツ人参加者10名

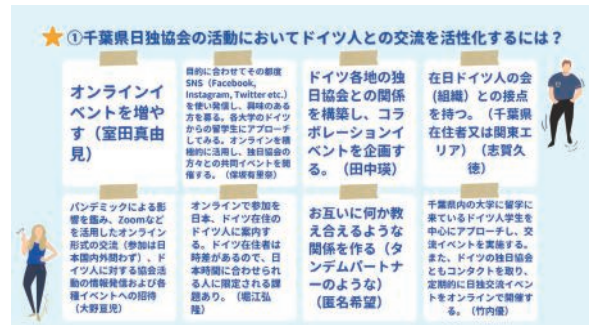
後援：ドイツ連邦共和国大使館

青壮年部懇談会で語られたこと

理事 竹内 優

6月19日(土)の青壮年部懇談会では活発な議論が行われました。

第1部「千葉県日独協会の未来」では①「千葉県日独協会の活動においてドイツ人との交流を活性化するには?」、②「若手会員を増やすには?」、③「今後企画したいイベントやDie Eicheのコーナー、協会の新たな取り組みは?」について、運営委員ではない青壮年部員による事前の回答に基づき意見が交わされました。



質問①によせられた意見

質問①には「コロナ終息後もオンライン交流継続(日独協会とシュタムティッシュ開催等)」、「県内大学・高校のドイツ語を話す留学生と交流」、質問②には「TwitterやInstagramでの発信」、「タンデムを提供し若手会員増加に繋げる」、質問③の今後企画したいイベントには「ビジネスドイツ語、友達との会話など様々なドイツ語講座」、「日本語・日本文化をドイツに発信」、「日独スピーチコンテスト」、Die Eicheのコーナーに関しては「これらのアイデアを今後編集委員会で考えていきたい」と勝見編集長からコメントがありました。



用意されたフライヤー 左：日本語、右：ドイツ語



質問③によせられた意見



第1部の集合写真

第2部「日独若者シンポジウム」では①「日独の若者交流をより活発にするには?」、②「コロナ禍の日独交流ーコロナ禍で日独のつながりを感じるには? コロナ終息後ドイツ・日本でやってみたいこと、訪れたい場所」について日独混合約4名の小グループで話しました。



小グループに分かれて

質問①には「オンラインタンデムを実施」、「Tandem、HelloTalk、Discordなどアプリの活用」、「Zoomなどを活用し交流の場を設ける（留学から帰国後は日本語・ドイツ語を話す機会がなくなるため）」、「クールジャパンなど日本の情報を発信」、「ドイツ人留学生を日本滞在時に取り込む」、「メール・LINEでの交流」、「県内小・中・高校で日独交流・留学の機会を作る」などといった意見がありました。

質問②のコロナ禍で日独のつながりを感じるにはという問いに対しては、「オンラインを積極的に活用」、「オンライン留学」、「千葉県日独協会オンライン会員をつくる」といった意見がありました。コロナ終息後ドイツ・日本でやってみたいこと、訪れたい場所には「福島、鋸山、東京、箱根、鎌倉、奈良、広島、長崎などを訪れたい」、「日本でワーキングホリデーをしたい」、「ハンブルクやキールなど北ドイツを訪れたい」、「オクトーバーフェストに行きたい」、「ドイツでパンを食べたい」、「Kneipeやカラオケに行きたい」、「友達、タンデムパートナー、ホストファミリーに会いに行きたい」などという声がありました。

青壮年部懇談会に参加して

理事 田中 瑛

今年6月19日(土)に千葉県日独協会創立25周年を記念し開催された青壮年部懇談会に参加させていただきました。



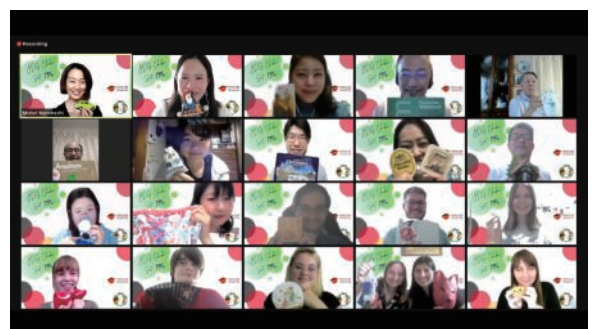
小グループに分かれて(筆者右上)

懇談会は2部構成で行われ、まず第1部の「千葉県日独協会の未来」では運営委員会メンバーおよび青壮年部員が現在の協会の課題を共有したり今後の発展に向けてどのような施策ができるかを話し合いました。普段、あまりお話しする機会がない会員の方の意見やそれぞれのユニークな視点でのアイデアを聞くことができ、率直な意見交換の機会を持つことができたことは大変大きな収穫でした。45分という時間が本当にあっという間でした。

第2部はまさにこのコロナ禍でオンライン化が進んだからこそ可能になったイベントで参加を申し込んだ時からとても楽しみにしていました。ドイツから参加した方々は皆、初めてお会いする人ばかりでしたが事前に顔写真入り参加者一覧をいただいていたため、それほど緊張することなく和気あいあいとした雰囲気の中で話し合うことができました。自由な海外旅行ができない今、今回のような日独オンライン交流会の機会がいかに重要か、話し合いの中で再認識できたように思います。このような素晴らしいイベントを企画してくださった竹内さんはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。



事前に配布された顔写真入り一覧



第2部の集合写真、それぞれドイツらしい物、日本らしい物を手にして

運営委員が考える 千葉県日独協会の今後

千葉県日独協会のこれから

会長 金谷 誠一郎

私は設立時より当協会におりますが、創設に大きく関わられた花井 清顧問（故人）から言われた事を2点お伝えします。

①当協会は習志野俘虜収容所で亡くなられたドイツ兵30名の慰霊祭を大使館武官と共に行う事を目的に設立したものであり、余程のことがない限り、必ず実行すること。

②当協会名は「千葉県日独協会」であり、県内のどこかに日独協会を設立する動きがあれば、「千葉県日独協会〇〇支部」とするように説得すること（これは、お互いに対立せずに連携するように、という意）。

今年6月19日に当協会創立25周年を記念して青壮年部懇談会が、その第2部は日独交流160周年記念行事として日独若者シンポジウムがオンラインにて開催されました。コロナ禍で浸透してきたオンライン形式のイベントですが、各々が自宅から参加し、第2部ではドイツ人10名が日本とドイツから参加するという、コロナ以前では想像もつかない形での交流会でした。参加者の皆さんが積極的で驚くと共に、当協会の明るい未来を感じることが出来、感心しました。

これからは創立30周年に向けてアフターコロナ時代に順応し、新たな活動の形を模索していくことと思います。一方で先人たちの思いを伝えていくことは会長としての使命だと感じ、ここに記した次第です。会員の皆様には、何卒宜しくよろしくお願い申し上げます。



2020年11月10日コロナ禍、規模を大幅に縮小して
開催したドイツ軍人慰霊祭

これからの協会活動について

副会長兼事務局長 杉田 房之

元々「千葉県日独協会」の存在を知りませんでした。2012年6月協会主催のドイツ旅行に参加させていただきました。35年ぶりに3年強駐在員生活を送ったデュッセルドルフ郊外のアパートが昔のままの姿で迎えてくれたことに感激しました。帰国後誘われて9月に入会しました。入会当時の協会活動は、宗宮 会長（当時）を中心に、橋口さんを初め70才台の先輩諸兄が運営委員として積極的に活動しておられました。その当時はインターネットやスマホは未だ自由に使いこなせる環境に無かったので、アナログ作業で頑張っていたのが印象的でした。



2年後に事務局長をお受けしてから7年が過ぎましたが、これからの協会活動をさらに発展させてゆくためには、会員の陳代謝により、現状会員数を何とか維持しながら、新しい風を吹き込み、新たな趣向での行事、交流活動を加えてゆくことが必要であろうと思います。そういった意味で、この7年間を振り返り、当協会の今後の活動の在り方につき、思いつくことを下記します。

この数年は若い年齢層の会員が運営委員となり、また青壮年部として、活動の中心となり積極的に提案・企画・実行してきており、コロナ禍という難しい環境の中でも、IT知識をフルに活かしてオンラインの催しを含め、新しい魅力的な活動を進めており、頼もしい限りです。ホームページの活用を含め、ITを駆使して対外PR活動を行なうことにより、会員増に繋げてゆくことが期待されます。

当協会は、第一次世界大戦後で亡くなられた「ドイツ軍人」の慰霊祭が成立のベースになっており、この催しは活動の第1の柱として、これからも絶やさず続けてゆく使命があるでしょう。今後の活動としては、従来の恒例行事による会員間の交流・懇親を深めることに加え、IT活用による青壮年交流等の日独友好活動での新たな柱を作り出すことが期待されます。

とは言え、我々の置かれた現実（限られた会員数、財政面での制約、等）を踏まえたうえで、多くの会員に積極的に参加していただきながら、余りに手を広げ過ぎない活動、即ち「身の丈に合った活動」を地道に模索しながら、新たな活動を維持・発展させてゆくことが良いのだと思っています。

アフターコロナの千葉県日独協会 -25周年から30周年に向けて-

副会長 木戸 裕

昨年（2020年）来のまったく思ってもみなかったコロナ禍で、当協会も対面による活動がほとんどできなくなってしまいました。総会は、昨年も今年も書面による会議となってしまいました。毎月の運営委員会は、ズームを使ってオンラインで行っています。

そういうなかで私としましては、このコロナ禍をきっかけにしまして、コロナが終息したあとも、オンラインを積極的に使って、全国各地の「日独協会」、さらには独日協会アム・ニーダーライン（DJG）をはじめとするドイツの「独日協会」との交流を深めていくことができるのではないかと考えています。たとえば、クリスマスとかお正月とかに、オンラインを使ったシュタムテッシュのようなものを、DJGなどと共催して、日独交流をはかってみたいらうでしょうか？

「ドイツ語講座」も、昨年はコロナのためオンラインでの実施を余儀なくされましたが、アフターコロナでも、引き続きオンライン授業を行うことも考えられるかと思っています。現在は中級レベルですが、あわせてまったくの初心者向けの講座も考えられるのではないのでしょうか？そのほか、日本語・日本文化に関心をもつドイツの方々を対象に、当協会主催で、オンラインによる無料の講座（たとえば日本文学の読書会など）を行ってみるといった企画はどうでしょうか？当協会は、経験豊かな、多彩な分野の人材を抱えています。会員の中からボランティアで講師をお願いできる方を募ったらいかかかと存じます。

懸案である若手会員の増加ですが、たとえば、日本人学生はドイツ人学生からドイツ語を、ドイツ人学生は日本人学生から日本語をというように、相互に教えあうような場を、われわれ協会が設けることができれば、日独双方の学生さんのお役に立てるのではないのでしょうか？こうした学習法はタンデム方式と言われ、普通は二人一組のようですが、当協会では5人くらいのグループで行ってみてはどうでしょうか？協会の行事に参加することで何か得られるものがあれば、おのずと若手会員の増加にもつながっていくと思います。



いずれにしても、コロナ禍をきっかけに、オンラインを使った会議、催しが身近なものになりました。コロナが収まったあとも、当協会においてもオンラインを積極的に利用した活動が考えられるのではないかと思います。

しかし、やはり対面での交流には捨てがたいものがあります。たとえば、日時と場所を決めておいて、あらかじめ出欠を取るというのではなく、そこにいくと会員の誰かしらがいて、その日に、その場に集まった人たちで、コーヒーを飲みながら、あるいはビールのジョッキを傾け、ワインを味わいながら、楽しく歓談する。まさにシュタムテッシュですが、コロナの心配がなくなったら、そんなことも考えてみてはいかがでしょうか？

千葉県日独協会が、25周年を機に、次は30周年に向けてますますの発展をとげていくことを会員の一人として願っています。

以後入会順に掲載いたします。

現状の課題について私はこう考える

常任理事 志賀 久徳

当協会は日独友好親善を図ることを目的として25年前に創立されて現在まで、多くの方々の運営活動と会員の参加協力により発展を続けてきました。毎年開かれるドイツ軍人慰霊祭、他の定例行事、文化教養・特別行事にも参加させていただき、運営委員及びDie Eicheの編集委員にも加わる等、多くの思い出が出来ました。



しかし、運営委員会では課題として、事業計画の実効性、会員減少の対策、若手会員の加入促進、更なるドイツ人との交流の場の設営、新企画の発掘、他の団体との交流推進、等を抱えており、若手から熟年までのチームワークで担当を分散して改善に取り組んでいるところです。

昨年からコロナパンデミックにより、協会の活動も制約を受けていますが、今こそ過去からの活動実績の維持及び継承と、青壮年部によるデジタル活用等による新しい方式を推進することも大切と考えています。25周年記念誌の発行は、歴史や思い出を残すことは勿論、伝統により蓄積されたノウハウを共有しながら、時代の流れに沿った新しい協会活動を目指す節目となることでしょう。

千葉における会員協力による日独友好親善団体として、余り敷居の高くない自由に気軽に楽しめる会を目指したいと思っています。



昨年度は開催できなかった対面式の懇親会

千葉県日独協会の発展のために

常任理事 土屋 有里

今年25周年となる当協会では、設立当時の思いを継承しつつ、現在の活動を活性化していく必要性が出ています。課題として挙げられるのは、①新たな会員の確保、②ドイツ人との交流です。

①に関しては、外部の方にも参加しやすく誘いやすいイベントが有効と考えます。私が関わった企画に、ドイツパンと料理を楽しむ会があります。料理教室や食べ歩き会の他にも、様々なテーマのイベントを会員以外の方にも公開することで、まずは気軽に参加していただき協会を知っていただく、それが入会に繋がるのではないかと思います。

一方②については、オンラインによる交流の可能性が挙げられます。直接の交流に勝るものではありませんが、身近にドイツ人がいない場合、オンラインを使って自宅に居ながらドイツの方と繋がれることは大きなメリットといえるでしょう。また、オンラインで一度でも繋がっておけば、将来対面した際、よりスムーズに親睦を深めることになるのではないのでしょうか。

今後は、対面の良さとオンラインの有効性の両方を活かす企画が求められるでしょう。運営委員の一員として、会員の皆様のご意見をいただきながら、魅力ある企画を提案していきたいと思っています。



2019年10月食べ歩きの会

日本とドイツの交流の場を求めて

常任理事 本間 実里

昨年度よりドイツ語講習会、ドイツ語会話とドイツ語圏文化を楽しむ集まり（シュタムティッシュ）等を担当しています。コロナ禍でいずれもオンラインでの開催でしたが、場所を選ばず誰でもつながりを持つことの出来るオンライン交流に参加された皆様から温かいご意見を頂き、深くお礼申し上げます。

ドイツ語話者人口は約1億3000万人、そのうち約1億人がドイツ語を第一言語としています。



千葉県日独協会に入会されたきっかけはそれぞれでも、ドイツやドイツ語に興味があることは、皆同じ思いでしょう。また、千葉県在住のドイツ人や県内でドイツ語に接する機会が少なく感じていらっしゃる会員の方も多いと思います。

協会の課題の一つとして、ドイツに関わる人々との交流の場をどのように会員や一般の方に提供出来るかが挙げられます。会員同士の交流に留まらず、国内の他の日独協会やドイツ語圏と関連のある協会等との横のつながり、あるいはドイツ日独協会等との交流等、対面式、オンライン等、いずれも様々な可能性があります。縦糸と横糸が交差し点と線をつないでいく活動を今後も少しずつ試みたいと思っています。

1996年協会誕生から25周年を記念して

常任理事 安藤 永一

私は、ドイツに2度赴任、通算12年滞在いたしました。その他、ハンガリー、中国に通算6年の滞在を行い、総計18年海外で暮らしてきました。

1995年にドイツのデュッセルドルフ日本人学校の創立25周年記念祭があり、盛大に生徒、家族だけでなく、現地校に通って補習授業を受けている子供やドイツのギムナジウムに通っているドイツ人で日本や日本行事に関心のある人達との交流が盛んでした。

現在、上記のように日常的に日独双方の人々との交流が盛んであったことを考えますと、運営委員の一員として、さらに日独交流の場を日常的に体験できるような協会に進化発展させていくのがよろしいのではないかと思います。

これまで習志野ドイツフェアという催しに対して、千葉県日独協会の担当として習志野との連携構築に努めてきました。これは、ドイツに関する活動を積極的に行う千葉県日独協会の非会員の一般の市民に向けての活動アピールと位置づけられるかと思います。今後

もこの活動の継続は必要と思っています。青壮年部によるドイツ人を交えた座談会を6月実施しましたが、今後は、より積極的な対外活動がますます必要になるかと思っています。これまでの長期ドイツ滞在の経験を生かし、千葉県日独協会において日独の接点拡大に参画したいと思っています。



2019年10月
習志野ドイツフェア

私の担当業務の現状とこれから

常任理事 吉川 三朗

私は当協会に67才で入会させていただき、早くも8年目を迎えました。

これまでに担当した主な業務は、宗宮前会長から引き継いだホームページ記事の更新、橋口前副会長から引き継いだ各市で開催されるイベント会場における写真展示、ビール祭りやクリスマス会、創立20周年記念行事としての展示写真パネルの一新化及び協会ロゴマーク制定に合わせた協会員バッジの作成と販売などです。

また、2018年に実施したドイツ研修旅行の計画プランの作成及び2019年に発足した菩提樹委員会では北村 侑三郎理事のご支援のもと、2011年に県下16箇所に植樹された記念菩提樹の最新データを作成した経緯があります。こうした業務は、今後も協会活動として着実に続けていく必要があるものと考えています。

さて、これからについてですが、現在、展示用写真の黒パネルが自宅に12枚ほどあり、その都度イベント目的に合わせて選別して運搬し、会員の方と一緒に設営し展示しています。なお、私が担当する以前に作成された展示パネルは今でも橋口 昭八名誉会員のご自宅に保管されています。

今後、こうした展示用写真の制作・保管・運搬などを私がいつまでも続ける訳にもいかず後任の方が必要と考えております。幸いにも、最近では若い会員の入会もあり、そろそろどなたかにお任せしたいと考えております。



2019年10月いちかわドイツデーにおけるパネル展示



2020年1月習志野市庁舎におけるパネル展示

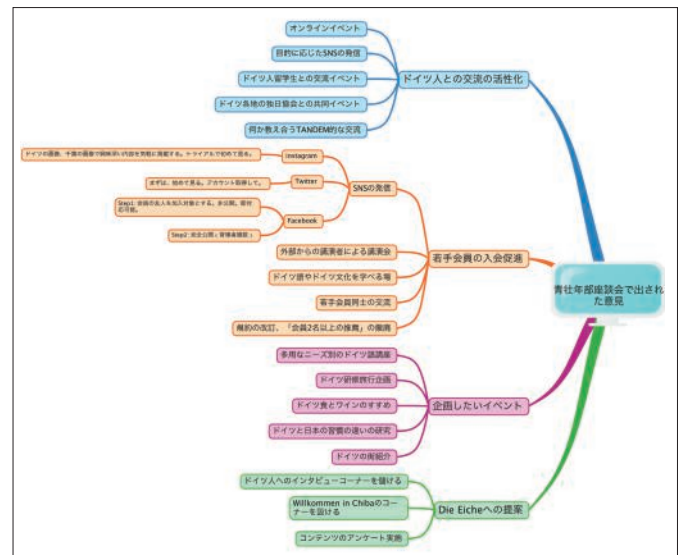
千葉県日独協会のさらなる発展を求めて

常任理事 勝見 浩明

現在、私は、青壮年部の推進と協会会報誌“Die Eiche”の編集長を担当しています。現在の協会の置かれている課題については、すでに各運営委員の皆様が触れておられる点と同じ考えを持っています。

与えられているミッションより、今後、次の3項目の取組みが更に重要となるかと思っています。

1点目は、対外活動の発展。他の独日協会、日独協会との接点構築、それらの連携を軸にしたドイツ人との交流促進。本Die Eiche 25周年特別号でも掲載しましたが、ドイツ人を交えた「日独座談会」など、今後、テーマ性をよりはっきりさせて拡大するのは、非常に重要なことと捉えています。勿論、コロナ収束後には、多くの会員の皆様とのリアルな人的交流も再開されることと思います。2点目は、情報発信の観点での発展となるかと思っています。数年来Facebookにて日常的なドイツ、オーストリアを中心とする情報を希望された会員の皆様に情報共有しています。現在、クローズドなグループで情報共有していますが、段階的に情報共有の範囲を広げて交流の場を広げる、交流接点を多くする動きも必要となるかもしれません。同時にTwitter、InstagramなどのSNSを用いた協会の活動発信、さらには、協会Home Pageの改革と併せ、千葉県日独協会の非会員の方からの接点を拡大する動きが必要かと思っています。3点目は、会員メンバーの専門性を共有、意見交換の場、同好の場を設けて、発信できるような協会内のコアコンピタンスの鮮明化が必要かと思っています。まずは、青壮年部の活動にてそのような取り組みを始動、協会内にその活動を広める動きを形成したいと思っています。最終的には、協会活動の8つの柱に対してどう各々の枝を進化させるか、協会としての中期計画も必要かと思っています。



青壮年部懇談会でテーマアップされた項目（今後の検討課題）

会計を担当して

常任理事 本橋 緑

2020年度より会計を担当しています。新型コロナウイルス感染症の影響で実際に引き継ぎをしたのが夏です。実務について約1年になります。協会活動は皆様からお納めいただく会費やご寄付で成り立っているのだと、改めて実感いたします。心から感謝申し上げます。



昨年度はほとんどのイベントが中止になり、そのため一般会計、特別会計ともに支出が大幅に減りました。ただし、例年は一般会計の支出が収入を大きく上回っています。改善しなければ、やがて運営資金が足りなくなる状態に陥ります。

客観的に会計上の数値だけを見て、一番削減しやすいのはやはり印刷費とその郵送費に該当する部分でしょう。インターネットを日常的に利用している方へは、協会ホームページとメールで連絡をし、Die Eicheや各種お知らせの印刷物を減らせば、それを郵送する費用も抑えられます。段階的に無理なく実現できれば理想的です。

大きな組織ですので、全ての皆様にご満足いただくのはなかなか難しいことですが、日々一生懸命に協会活動に携わっております。今後とも協会運営にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

千葉県日独協会ホームページについて

理事 田中 瑛

昨年より協会ホームページを担当させていただいております。現在、運営委員会では協会ホームページの見直しを新型コロナウイルスが収束し、対面での会議が可能となった段階で時間をかけて今後の基本線を決めるということになっていますが、現状の課題として私は以下のよう



なことが挙げられると考えています。まず、会員間のイベント外での交流の活性化のため、現在あまり使用されていないホームページの会員専用ページを有効活用すること。そして二つ目に、新規会員獲得のため魅力あるホームページデザインを目指すことです。例えば、対外用のSNS(FacebookやInstagramなど)にホームページから飛べるよう連携したり、スマートフォン対応したレスポンスデザインを導入することで特に若者の入会促進につながるのではと考えます。3年前、私が協会に入会したのは千葉県日独協会のホームページを見たことがきっかけでした。このように、ホームページを見たことがきっかけで本協会に入会する方が増えるよう、そしてすでに会員になっている方々のさらなる交流の活性化のため、会員の皆様からご意見を頂戴し魅力あるホームページづくりに取り組んでいきたいと思

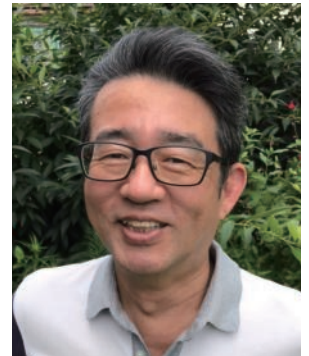


現在の協会ホームページ

千葉県日独協会のニューノーマル(新常識)を求めて

理事 植松 健

これまで、コロナのせい(wegen Corona)で、多くの行事や催し物が中止となりました。時には「言い訳」としての便乗利用もあります。しかし、決してマイナス効果だけではなく、むしろコロナのおかげ(dank Corona)で、多くの「不要不急」という贅肉がそぎ落とされたのも事実だと思います。これまで対面が当然だった顧客訪問ですら、「オンライン」でも充分可能な場合もあることを気づかせてくれました。



これからは「シニアこそIT!」ではないでしょうか?世の中がどんどん高齢化が進もうとも、「オンライン」なら体力の衰えを気にすることなく多くの行事や会議に継続して参加できるシニア会員は多いと思います。

今まさに「必要緊急」なことは、古い慣習に囚われない自由で柔軟な発想です。「オンライン会員」は世界中どこからでも参加可能です。卒業や帰国で千葉県を離れ退会する(ドイツ人)学生会員を繋ぎ止める方策として大変有効です。またこれからの行事は全て「Präsenz」と「Virtuell」両方の開催とすれば、会員の家族や特に子ども達も気軽に参加できるようになり会員増に繋がること間違いありません。



オンラインシュタムティッシュ

編集後記

Die Eiche 編集長兼青壮年部部長 勝見 浩明

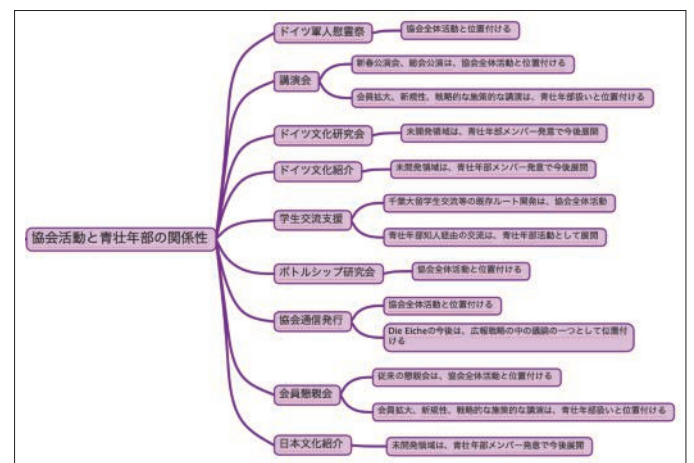
Die Eiche 25周年特別号については、何故、25周年に発行するのと思われる方々も少なからずおられると思います。冒頭、金谷会長もこの点、言及されておりましたが、本特別号の発行の大きな背景として、新型コロナウイルスの影響も背景の一つとして挙げられます。即ち、対面式での記念式典開催を行うことができないことから、会員の皆様より寄稿文を頂き、この間の25周年のあゆみを会員の皆様と振り返りつつ、5年後の30周年に向けての考え方を整理して将来に向けた準備を行うべく、特別号を作成しようということになりました。

Die Eiche 4月号（No.130）発行と同時に会員の皆様に今回の25周年特別号への寄稿文、メッセージをお寄せいただく為の依頼状を同封、おかげさまで多くの皆様から原稿を送付していただきました。ありがとうございます。いただいた原稿は、原文のまま掲載させていただいております。協会会員の皆様、各運営委員の25周年に関する心境、今後に向けての考えをまとめることができたと思っております。また同時期に多くの来賓の皆様からも温かいご祝辞を賜り改めて感謝申し上げます。

尚、今回の25周年特別号の制作については、編集委員の本橋常任理事、本間常任理事、植松理事に制作に深く携わっていただき、目次構成の議論と記載分類の精緻化と記載のナンバリングによる管理、原稿テンプレート化による入稿原稿の可視化により、ストーリー性の確保と制作会社での制作効率を上げることができたと思います。結果、編集経費の増大リスク低減に努めることができたのではと捉えています。また、制作に当たっては、Die Eiche 編集長を長年務めておられた田中 正延前編集長にDie Eicheで掲載した年表、写真をご提供していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

現在おかれている当協会の現状の課題については、当25周年特別号で記載されていますので重複を避けたいと思いますが、協会の先輩方が当初、協会活動の骨子をととてもわかりやすく図示化（右上樹木図）してまとめてくださっております。今後、一層、海外との交流、会員相互の交流を深めることを含め、活動を発展させていく上で、どの枝に取り組みを行っているのか、また、どの枝を強化するのか、限られたリソース、一方、専門領域に造詣深い、会員の皆様との交流を促進する上でもこの協会活動の樹木図をもとに活動を中期視点での活動など実現性含め、しっかりと運営委員会でも議論することが重要と思っています。同時に青壮年部の視点で申し上げるならば、前述の協会活動の樹木図の中で協会全体で推進する取り組みと青壮年部が新規にトライアル含めチャレ

ンジ発展される項目に分けて活動を行い、協会の中の知見を共有してコアコンピタンスを高めることが重要と思っています。結果、千葉県日独協会には、ドイツについてさまざまな知見が集まっている、ドイツ人から見ると、日本について意見交換できる組織であるというような協会の知見、コアコンピタンスを着実に形成することが今後の発展につながると思っています。添付の青壮年部の議論マップは、検討用の内容ですが、どのように検討すべきか、協会活動の樹木図をリファレンスして会員も活動を楽しめることができる組織にしていくことが今後の運営委員としての務めと思っています。



協会活動の各項目（上図）と青壮年部の取り組み項目（下図）

Appendix 1

千葉県日独協会の年表

Die Eiche No.103（創立 20 周年特集）にて作成された年表をベースに、最近 5 年間の主な出来事等を加筆いたしました。

年	月・日	会長名	主な出来事	内容など
1955 (S30)	11.13	－	ドイツ軍人慰霊碑、御影石に	第1回日独合同追悼慰霊祭挙行。Dr.ハンス・クロール独大使主催
1970 (S45)	11.4	－	上記慰霊碑を船橋市営霊園に	自衛隊習志野駐屯地（陸軍墓地）から船橋市営習志野霊園建設に伴い移設
1986 (S61)	3.27	－	石崎申之（のぶゆき）氏死去	戦後、荒果ていたドイツ軍人の墓守を子息の満氏（会員）と続けられた元陸軍少尉。89歳
1995 (H7)	11.19	－	慰霊碑建立 40 周年記念の慰霊祭	ディークマン独大使ら来賓約 200 名にて慰霊祭を挙行。加藤吉昭、花井清、林静誠氏らが中心
1996 (H8)	6.1	－	千葉県日独協会の創立	ディークマン独大使夫妻、大橋船橋市長ら来賓と船橋グランドホテルにて祝賀パーティー
	11.17	－	第2回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツカシワ（Die Eiche）を習志野霊園に植樹。（1936年ベルリン五輪三段跳び優勝者田島直人氏受賞の孫苗）
1997 (H9)	4.26	加藤吉昭	第1回年次総会開催	加藤吉昭を新会長に選出。来賓者など53名出席して創立1周年記念祝賀パーティー
	6.1		協会通信「Die Eiche」創刊	A4版モノクロ2頁。年次総会と記念祝賀会の報告。活動計画を掲載
	8.28		ドイツハンドボールチームとの交流会	ジャパンカップ参加のため来日したドイツチームの歓迎交流会が開催
	11.16		第3回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツ大使館からP.トロプシュク国防武官、協会役員が出席。会員は自由参拝
1998 (H10)	5.16		年次総会開催	
	10.10		DAAD 留学生・研修生との交流会	（財）日独協会主催 DAAD 留学生・研修生等との日帰り房総バス旅行
	11.8		第4回ドイツ軍人慰霊祭	
1999 (H11)	5.15		年次総会開催	
	11.14		第5回ドイツ軍人慰霊祭	
2000 (H12)	1.15		特別資料展開催	習志野市教育委員会主催『ドイツ兵士の見た NARASHINO』
	5.27		年次総会開催	
	10.14		DAAD 留学生・研修生との交流会	（財）日独協会主催 DAAD 留学生等との日帰り水戸バス旅行
	11.26		第6回ドイツ軍人慰霊祭	
2001 (H13)	4.21		年次総会開催	
	4.28		加藤吉昭会長、逝去。享年 73 歳	
	9.8	平尾浩三	臨時総会開催	2代目会長に平尾浩三氏を選出
	10.13		DAAD 留学生・研修生との交流会	（財）日独協会主催 DAAD 留学生等との日帰りつくばバス旅行
	11.25		第7回ドイツ軍人慰霊祭	
2002 (H14)	5.18		年次総会開催	
	10.20		DAAD 留学生・研修生との交流会	（財）日独協会主催 DAAD 留学生等との日帰り房総バス旅行
	11.24		第8回ドイツ軍人慰霊祭	
2003 (H15)	5.17		年次総会開催	
	11.3		DAAD 留学生・研修生との交流会	（財）日独協会主催 DAAD 留学生等と川越遠足
	11.30		第9回ドイツ軍人慰霊祭	
2004 (H16)	6.12		年次総会開催	
	11.21		第10回ドイツ軍人慰霊祭	
2005 (H17)	1.31		常木貴協会顧問、逝去。91歳	
	5.14		年次総会開催	
	10.20		「ドイツに親しむ三日間」開催	千葉大学けやき会館にて
	11.20		第11回ドイツ軍人慰霊祭	
2006 (H18)	5.19		第1回ドイツ研修旅行	5.26 迄、ロマンティック街道の旅（21名）
	6.16		年次総会開催	
	10.14		協会設立 10 周年記念祝賀会開催	船橋グランドホテルにて、会員ら 71 名参加
	11.19		第12回ドイツ軍人慰霊祭	
2007 (H19)	5.19		年次総会開催	
	11.18		第13回ドイツ軍人慰霊祭	
2008 (H20)	×.6		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生に日本舞踊披露後、歓迎会
	5.17		年次総会開催	
	6.13		第2回ドイツ研修旅行	6.22 迄、ゲーテ街道の旅（31名）
	8.25		第1回ドイツ人学生研修実施	独日協会アム・ニーダーラインとの日独学生交流プログラムで8.25-9.5ドイツ人学生2名の受け入れ
	11.16		第14回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツ捕虜オーケストラの碑「除幕（11.11）」が報告された
2009 (H21)	4.20		全国日独協会連合会年次総会開催	4.22 迄、幕張メッセ国際会議場にて、史上初の 29 協会参加
	7.24		「ドイツ語を話すタベ」開催	千葉大学清野先生のもと、千葉大のドイツ人留学生達と会話を楽しむ交流会（全5回開催）
	11.15		第15回ドイツ軍人慰霊祭	
2010 (H22)	2.11		ボトルシップ研究会発足	

年	月・日	会長名	主な出来事	内容など
	5.15	宗宮好和	年次総会、宗宮好和会長選出	平尾浩三名誉会長に、新会長がドイツ捕虜その後の調査研究を提案（ボトルシップ研究会）
	5.27		第3回ドイツ研修旅行	6.5 迄、ハンザ同盟を巡る旅（30名）
	8.26		第2回ドイツ人学生研修実施	独日協会アム・ニーダーラインとの日独学生交流プログラムで8.26-9.6ドイツ人学生2名の受け入れ
	10.28		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を伊東惇子監事宅にて歓待、お茶のお点前
	11.14		第16回ドイツ軍人慰霊祭	
2011（H23）	2.19		第1回ボトルシップ研究会開催	15名参加、ドイツの1910年代アフリカ政策を勉強
	5.14		年次総会開催	
	11.13		第17回ドイツ軍人慰霊祭	慰霊祭後、日独交流150周年記念菩提樹の植樹祭（船橋市・阿弥陀山清房院にて）
2012（H24）	5.19		年次総会開催	
	6.1		第4回ドイツ研修旅行	6.10 迄、南西ドイツを巡る旅（23名）
	11.18		第18回ドイツ軍人慰霊祭	
2013（H25）	1.23		ホームページ開設	協会活動の公開と国内外の情報収集ツールとして
	5.18		年次総会開催	
	11.10		第19回ドイツ軍人慰霊祭	
2014（H26）	5.16		年次総会開催	
	9.2		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を伊東惇子理事宅にて歓待、浴衣体験
	11.16		第20回ドイツ軍人慰霊祭	Die Eiche No.91で「慰霊祭20回特集」を発行。同号からフルカラー化など紙面を一新
	12.13		「ドイツと私」連載スタート	Die Eiche No.92より
2015（H27）	1.17		協会初のドイツ学生ホームステイ	1.17-18、24-25の2回に分けて千葉大留学の女子学生4人を会員宅にて1泊2日
	5.16		年次総会開催	一般会計健全化と協会20周年記念行事実施のため、会員へ寄付を呼びかける
	8.8		ボトルシップ研、協会初の翻訳完成	ドイツ女医の「祖父リューアスの体験」（第一次大戦）を宗宮会長を中心に会員9名で
	8.20		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を伊東惇子理事宅にて歓待、浴衣体験
	11.15		第21回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツで演奏旅行を続ける県立千葉女子高オーケストラ部が初参加しドイツ国歌を演奏
2016（H28）	4.9		Die Eiche創刊以来100号に	1997年6月以来。記念号は「Eicheは何を伝えたか」を主な記事と講演会を一覧表に
	4.23	金谷誠一郎	年次総会、金谷誠一郎会長選出	宗宮好和名誉会長に。新会長「若手会員の拡大」などを提案
	5.20		第5回ドイツ研修旅行	5.29 迄、古城街道の旅（22名）
	6.11		協会バッジのロゴマーク決定	Die Eiche総集編（Ⅱ）のデザイン決定
	8.17		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を和風居酒屋にて歓待
	10.22		協会創立20周年記念祝賀会開催	Die Eiche総集編（Ⅱ）発刊（No.47～100）。Die Eiche No.103 創立20周年記念号
	11.3		千葉県より「文化の日」に表彰された	「地域観光振興功労者」として森田健作知事より県議員会館で団体表彰される
	11.20		第22回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツ大使館よりライプホルツ武官が夫人と子息を伴いご参加
2017（H29）	5.20		年次総会開催	記念講演会、成田久枝氏「市川市国際交流協会の歴史と今後」
	8.22		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を歓待
	10.1		第1回ドイツパンと料理の勉強会	（公財）日独協会のドイツ人研修生にドイツのハンバーグ（Buletten）他2種類のドイツ料理を学ぶ
	11.19		第23回ドイツ軍人慰霊祭	ライプホルツ武官ご夫妻、会員ら100名参加
2018（H30）	4.8		國枝誠昭元副会長 逝く	享年86歳
	5.12		年次総会開催	記念講演会、宗宮好和名誉会長「習志野俘虜収容所の写真111枚」
	5.25		第6回ドイツ旅行	6.2 迄、デュッセルドルフと旧東ドイツの旅（20名）
	7.1		青壮年部活動スタート	9名のメンバーでスタート。若手会員による活動内容の多様化、活性化、会員増員について話し合う
	10.12		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を歓待
	11.18		第24回ドイツ軍人慰霊祭	ドイツ大使館よりヴァエテルン大使ご夫妻参加。大使が千葉女子高オーケストラ部員を指揮
2019（H31）	1.19		菩提樹委員会初回会議	日独交流150周年記念菩提樹の成長状況につき、定期的に管理、報告をしてゆくため
	3.3		トールペインティング教室開催	Bauern-MalereiでOstern（イースター）プレートを作成
（R1）	5.11		年次総会開催	記念講演会、加藤和子氏「歯の咬み合わせと健康について」
	5.25		デュッセルドルフ市と千葉県の姉妹提携	デュッセルドルフ市と千葉県が姉妹提携合意書に署名
	9.3		デュッセルドルフ市派遣の奨学生との交流会	独日文化交流育英会の研修プログラムで来日のドイツ人奨学生を歓待
	11.7		イナ・レーベル新大使の講演会	ホテルグリーンタワー幕張にて来賓ら約60名参加
	11.17		第25回ドイツ軍人慰霊祭	キーゼヴェッター武官初参列
2020（R2）	1.14		習志野市ドイツ捕虜解放100周年行事	1.26 迄、習志野市役所グランドフロア・1階にて。写真展示（ザッセ氏の写真を含めて）
	1.25		トールペインティング教室開催	Bauern-MalereiでWillkommen（ウェルカム）プレートを作成
	2.8		新春講演会	船橋中央公民会にて、ゲオルク・ロエル氏「EU、ドイツ、そして日本～現在、過去、未来」
	5.25		初の書面による年次総会開催	新型コロナウイルス感染対策
	9.30		ボトルシップ研、翻訳第2回完成	「エーリッヒ・カウルの日記」を協会HPに公開
	10.31		ドイツ語講習会	コロナ対策として初めてZoomを使ってオンラインで開催
	11.10		第26回ドイツ軍人慰霊祭	キーゼヴェッター武官参列、コロナ感染対策のため小規模開催
	12.13		第1回オンラインシュタムティッシュ	コロナ禍で対面形式の行事が中止となる中、オンラインにて開催し会員間の親睦を図る
2021（R3）	4.17		書面による年次総会	新型コロナウイルス感染対策（昨年度に続き2回目）
	5.30		Mahlzeitの共同開催	オンライン食文化講演会を日独文化協会と共同開催
	6.19		青壮年部懇談会開催	ドイツからの参加も得て、千葉県日独協会のこれからと未来の日独若者交流について話し合う
	7.18		第2回オンラインシュタムティッシュ	様々な場面における初級ドイツ語会話の習得を目標に全2回開催。会員9名、非会員1名の参加を得る
	9.5		Mahlzeitの共同開催	オンライン食文化講演会「ハプスブルク家が愛した料理」を日独文化協会と共同開催
	10.2		ドイツ語講習会	オンラインにて開催予定（全6回）
	10.24		第27回ドイツ軍人慰霊祭	キーゼヴェッター武官参列、昨年同様コロナ感染対策のため小規模開催予定

Appendix 2

1861年に日本とドイツ（江戸幕府とプロイセン）の間で修好通商条約が締結されてから150年目の2011年、ドイツ大使館から記念樹として150本の菩提樹の苗木が全国の日独協会に寄贈されました。千葉県内では多くの市町、企業や団体の方々等のご協力のもと、30本が16ヶ所に植樹されました。

日独交流 150 周年記念菩提樹植樹リスト

植樹場所	寄贈本数	住所	連絡先	現存本数
・市川市東山魁夷記念館	2本	市川市中山1-16-2 (京成中山駅、木下街道沿)	047-333-2011	2本
・市川市里見公園	3本	市川市国府台3-9 (京成国府台駅、江戸川沿)	047-712-6367	3本
・習志野市 JR 津田沼駅 南口緑地5 津田沼公園内	6本	習志野市谷津1丁目 (JR 津田沼、駅前公園内)	047-453-9297	5本
・我孫子市南新木沖田公園	3本	我孫子市新木3丁目12 (JR 成田線新木駅 徒歩8分)	04-7185-1542	0本
・御宿町立御宿小学校	1本	御宿町久保2085 (JR 外房線御宿駅)	0470-68-2009	1本
・布施学校組合立布施小学校	1本	御宿町上布施909 (JR 外房線御宿駅 約4km)	0470-68-2437	1本
・御宿町歴史民俗資料館	1本	御宿町久保2200 (JR 外房線御宿駅)	0470-68-4311	1本
・印旛沼サンセットヒルズ	1本	佐倉市飯野町27 (京成佐倉駅 約4km)	043-484-1011	1本
・社会福祉法人佐倉厚生会・ 特別養護老人ホームさくら苑	2本	佐倉市鎗木町346番地 (JR 総武線佐倉駅 約2km)	043-486-5050	2本
・DIC川村記念美術館 (ヘンリー・ムーア広場)	1本	佐倉市坂戸631 (JR 総武線四街道 約6km)	043-498-2131	1本
・千葉県がんセンター	1本	千葉市中央区仁戸名町666-2 (京成千葉線大森台駅 約1.5km)	043-264-5431	1本
・千葉市昭和の森	1本	千葉市緑区土気町22 (JR 外房線土気駅 約2km)	043-294-2884	1本
・東京ドイツ村	3本	袖ヶ浦市永吉419 (久留里線東横田駅 約3km)	0438-60-5511	2本
・阿弥陀山清房院	2本	船橋市飯山満町2-761 (東葉高速線飯山満駅 徒歩10分)		2本
・社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会		富津市川名1436 (JR 内房線大貫駅 約3km)	0439-87-9381	
- 楽生園	1本			1本
- 富士見の里	1本			1本
計	30本			25本



Die Eiche

千葉県日独協会創立25周年特別号

編集長： 勝見 浩明

編集スタッフ： 植松 健 本間 実里 本橋 緑

編集委員： 金谷 誠一郎 杉田 房之 木戸 裕
 志賀 久徳 吉川 三朗 土屋 有里
 田中 瑛 竹内 優

千葉県日独協会

〒274-0822

船橋市飯山満町2-518-1

清和会第2ワールドナースングホーム内

TEL：047-461-9111 ☒：info@jdg-chiba.com

FAX：047-461-7010 HP：http://jdg-chiba.com/

